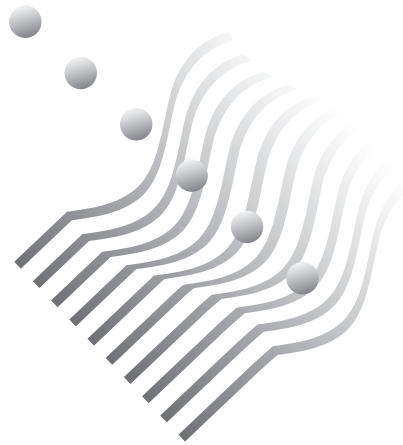


第3章

学習に関する意識・実態と 学習到達度の関連

- 「学習に関する意識・実態調査」と
「学習到達度に関する調査」のクロス分析より -



分析にあたって

1. 「学力」の意味について

今回の分析では、「学習到達度に関する調査」の結果を「学力」とみなし、「学習に関する意識・実態調査」の結果とクロスさせて分析している。第2章で詳述したが、今回の調査が、現行の学習指導要領に示されている前学年までの目標が達成されているかどうかを客観的に把握するとともに、幅広い資質・能力が測定できる内容であると考えためである。

しかし、測定する資質・能力は、筆記形式で短時間に行う1回限りのテストの範囲にならざるを得ないという制約があり、ある程度は限られた範囲の「学力」を測定していることは間違いない。また、実施教科も数学と国語の2教科にとどまる。この点に留意して、調査結果をみる必要があると考える。

今後、さまざまなタイプの問題開発や経年での実施などによって、より包括的な「学力」の把握が必要だが、今回は1つの試みとして調査実施、分析を行った。

2. 「学力」の階層化

本章の分析のために、テストによって測定した得点を以下の手続きにより階層化した。

- (1) 数学、国語の得点を偏差値に換算する。
- (2) 偏差値60以上を「上位」、50以上60未満を「中の上位」、40以上50未満を「中の下位」、40未満を「下位」として、それぞれの教科の学力階層を出す。

この結果、数学の学力階層の人数は表3-0-1、国語の学力階層の人数は表3-0-2のようになった。また、それらを性別にみると、表3-0-3と表3-0-4のようになった。

表3-0-1 数学の学力階層

	人数(%)
上位(偏差値60以上)	169(18.3)
中の上位(偏差値50以上60未満)	297(32.2)
中の下位(偏差値40以上50未満)	284(30.8)
下位(偏差値40未満)	173(18.7)
合計	923(100.0)

調査対象1,021名のうち、98名は数学を未受験であった。

表3-0-2 国語の学力階層

	人数(%)
上位(偏差値60以上)	93(10.6)
中の上位(偏差値50以上60未満)	359(40.7)
中の下位(偏差値40以上50未満)	312(35.4)
下位(偏差値40未満)	117(13.3)
合計	881(100.0)

調査対象1,021名のうち、140名は国語を未受験であった。

表3-0-3 数学の学力階層(性別)(%)

	男子	女子
上位(偏差値60以上)	19.9	16.7
中の上位(偏差値50以上60未満)	29.3	35.4
中の下位(偏差値40以上50未満)	32.2	29.3
下位(偏差値40未満)	18.6	18.7

表3-0-4 国語の学力階層(性別)(%)

	男子	女子
上位(偏差値60以上)	10.3	10.8
中の上位(偏差値50以上60未満)	41.0	40.6
中の下位(偏差値40以上50未満)	33.1	37.7
下位(偏差値40未満)	15.6	10.8

第1節 中学生の学習行動と学力

1. 学校での学習の様子と学力

①好きな教科・嫌いな教科と学力

数学の学力階層が上位の生徒ほど数学を「好き」「とても好き」「まあ好き」と回答する割合が大きい。「理科」や「美術」の好き嫌いとの関連も強い。国語でも学力階層と好き嫌いとの関連がみられるが、数学の場合ほど強くない。むしろ「社会」や「理科」と強く関連している。



あなたは、次の教科や学習の時間の勉強がどのくらい好きですか。

学校での勉強の好き嫌いは、学力階層とどのように結びついているのだろうか。数学と国語、それぞれについて関連をみてみた。図3-1-1によれば、教科の好き嫌いと学力階層はかなり明確に結びついていることがわかる。

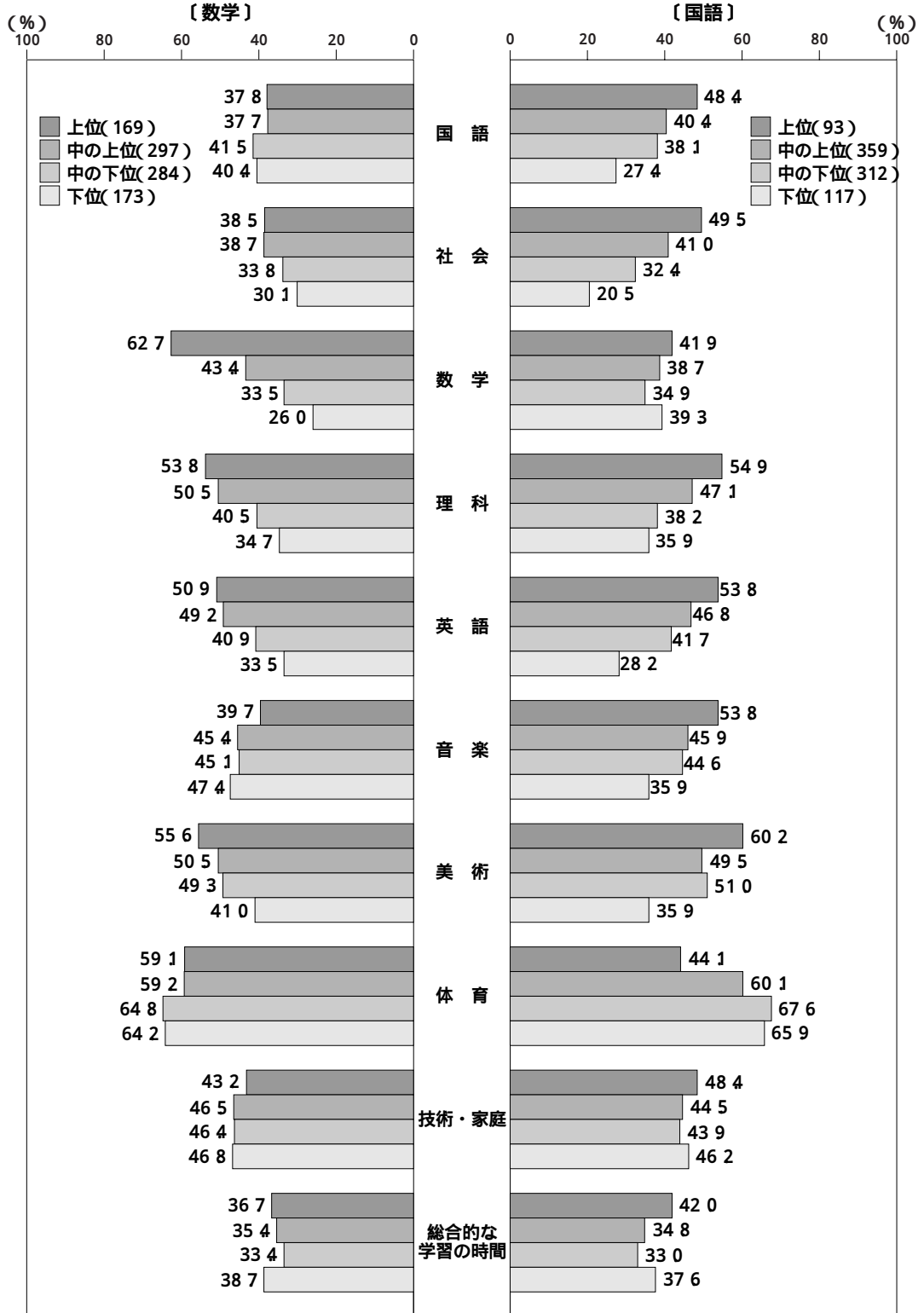
数学を「好き」「とても好き」と「まあ好き」の合計)と回答する割合は、学力上位層で大きくなっている。数学の学力上位層では、「とても好き」と「まあ好き」と回答した割合は62.7%を数えるが、下位層では3割にも満たない(26.0%)。数学の学力階層は、「理科」と「美術」の好き嫌いとも強く関連している。

国語の場合もやはり相関はみられる。たとえば、国語を「好き」とする割合は学力上位

層に比べて下位層では半分程度にとどまっている(48.4%に対して27.4%)。とはいえ、数学に比べると国語という教科での学力階層と好き嫌いとの関連はいくらか弱くなっている。他方、「社会」や「理科」の好き嫌いと同語の学力階層との関連はかなり強い。

全体として、「体育」など一部の教科を除いて、学力階層が上位の生徒ほど各教科を「好き」と回答する割合が大きくなっている。なお、「総合的な学習の時間」の好き嫌いには、数学や国語の学力階層が直線的に関連しているとは言えない。従来的な教科の「できる・できない」とは別の次元で、「総合的な学習の時間」の好き嫌いは成立しているようにみえる。

図3-1-1 好きな教科(学力階層別)



注1) 数値は「とても好き」と「まあ好き」の合計。
 注2) 「総合的な学習の時間」にだけ、選択項目の中に「履修したことがない」が含まれる。
 注3) ()内はサンプル数。

②授業の理解度と学力

学力階層の上位の生徒ほど、授業の理解度も高いと自己評価している。数学も国語も同様である。相関の強さはやや弱い、他の教科との関連も認められる。中学生の自己概念は学力をかなり正確に反映していると言ってよい。



学校の授業をどのくらい理解していますか(わかっていますか)。

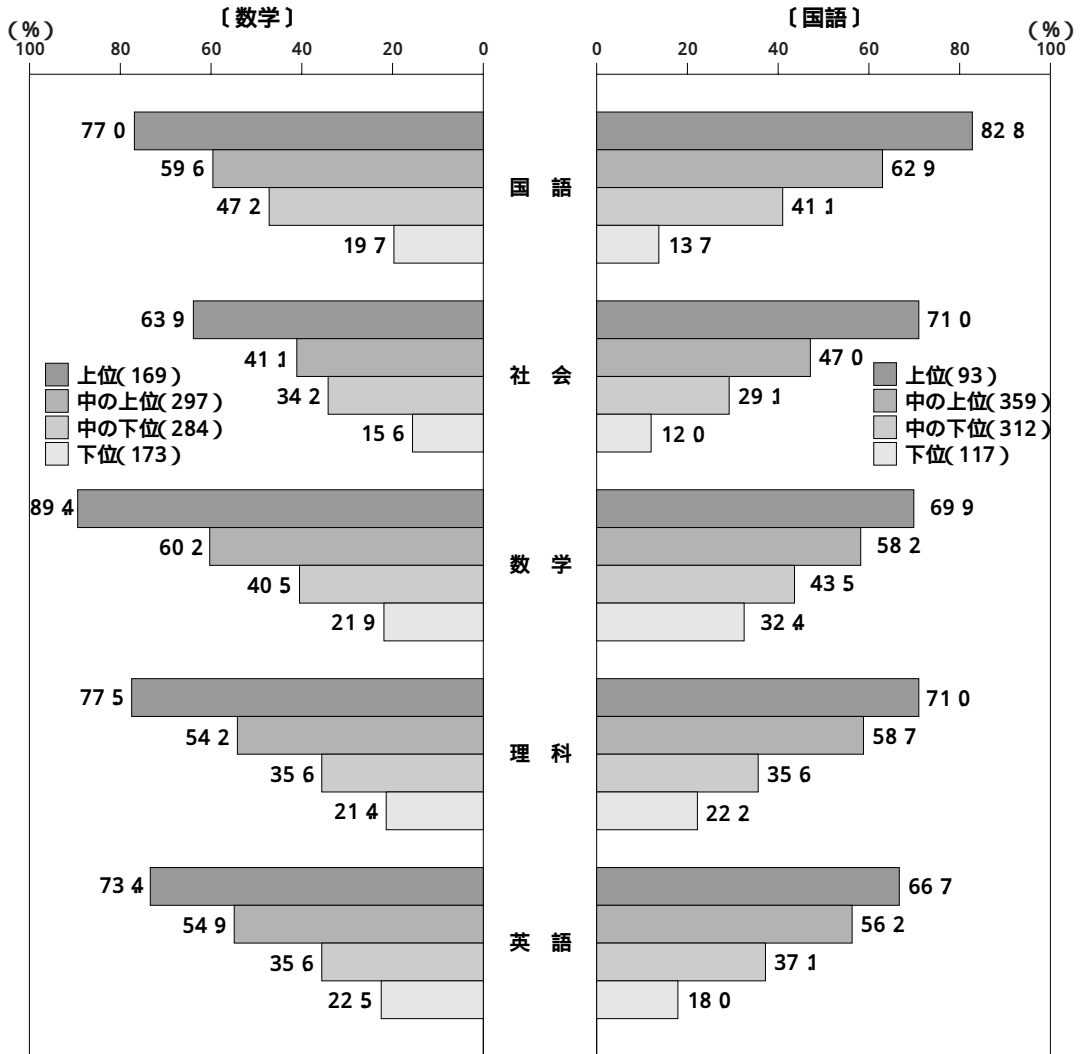
テストによって測定された学力階層と「学習に関する意識・実態調査(アンケート調査)」で把握された「授業の理解度」は、見事に対応している(図3-1-2)。

たとえば、数学の学力階層が「下位」の生徒のうち数学の授業について「ほとんどわかっている」「70%くらいわかっている」と回答した割合は21.9%であるが、学力階層が「上位」の場合には89.4%に達している。国語も

同様である。相関は、同じ教科にとどまらない。数学や国語で学力上位層の中学生は、「社会」や「理科」や「英語」でも授業の大部分を理解していると回答している。

成績や授業をめぐる中学生の自己概念は、かなりの程度正確に学力階層を反映しており、「いまどきの中学生は一般的に肯定的反応を示す傾向がある」という見方は必ずしもあてはまらない。

図3-1-2 授業の理解度(学力階層別)



③がんばって勉強したい教科と学力

がんばって勉強したい教科は、2教科の学力階層とそれほど強くは結びついていない。数学の学力上位層ほど、「理科」を「がんばって勉強したい教科」にあげる割合が大きい。逆に「数学」は学力階層と逆の相関を示す。「体育」は、いずれの教科についても学力下位層ほど「がんばりたい」と思う教科である。

Q

あなたは、これから学校で、どんな教科や学習の時間をがんばって勉強したいと思いますか。特にがんばりたいと思うものを3つまで選んでください。

「がんばって勉強したい教科」は、数学や国語の学力階層とさほど明確に結びついていない(図3-1-3)。しかし、概して言えば、対応する教科については、できる中学生よりもできない中学生のほうが当該教科をがんばって勉強したい教科にあげる割合が大きくなっている。したがって、少なくとも中学2年生の時点では、「できない」ことで教科を学習する意欲が衰えることにはつながっていない。ただし、「理科」については、数学や国語の学力下位層ほど「がんばって勉強したい」という意識が薄くなっている。これは、「理科」が応用的な性格を持っていることに由来しているのかもしれない。もしそうだとすれば、数学と国語のある内容が応用的な教科の基礎となることを示唆していることになる。

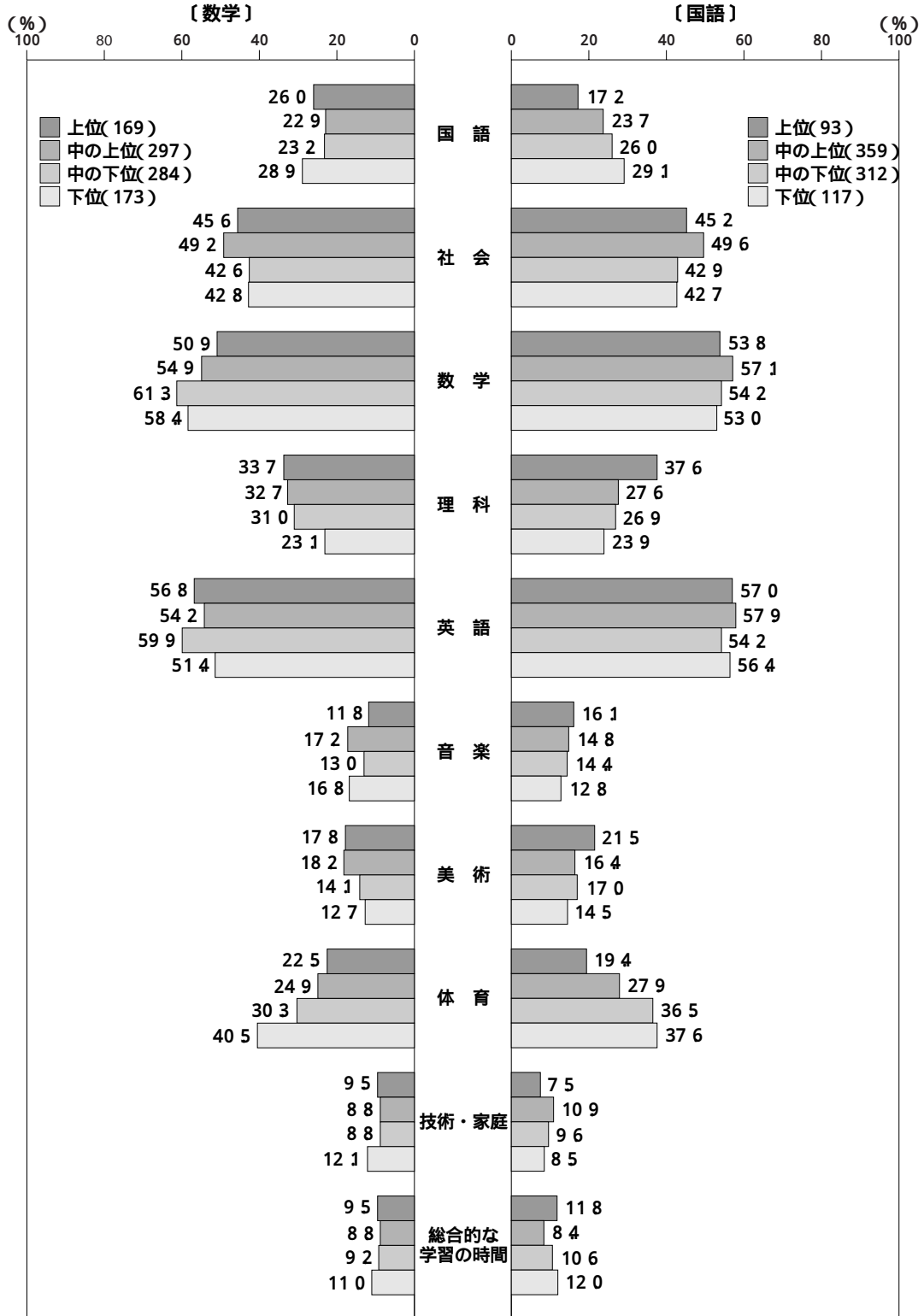
いまひとつの特徴は、数学と国語いずれに

ついても、学力下位層ほど「体育」をがんばって勉強したい教科にあげる傾向が顕著であるという点である。

数学の学力階層「上位」の場合、「体育」を「がんばって勉強したい教科」にあげる割合は、2割強にとどまっている。これに対して、学力階層「下位」にあたる中学生が同じ回答をした割合は、4割に達している。国語の場合にも、上位19.4% 中の上位27.9% 中の下位36.5% 下位37.6%とほぼ数学と似通ったパターンを示している。「体育」は、数学や国語の学力がはかばかしくない中学生にとっては、別の選択肢となっている教科でもある。

このように、学力階層との関連をみることは、教科が中学生にとってどのような意味を持っているのかを知る手がかりとなる。

図3-1-3 がんばって勉強したい教科(学力階層別)



注1) 10科目中3つまで選択。
 注2) ()内はサンプル数。

④授業の受け方と学力

学力階層が上位の生徒ほど、板書以外の大切な話をノートに書いたり、不注意で間違えたことについてくやしき思い、間違えた問題をやり直す傾向が強まる。下位になるほど、授業を難しいと感じ、授業からの離脱行為をすることが多い。この傾向は、数学の場合にいっそう顕著である。

Q

あなたの授業中の様子についてうかがいます。

授業の受け方は、学力階層によってどのように違っているのだろうか。あるいは、授業の受け方の違いが、どのような学力階層の違いをもたらしているのか。因果関係の方向をいずれかに定めることは困難ではあるが、授業の受け方と学力は相乗的に影響し合っていると考えてよい(図3-1-4)。

学力の高さと一貫した強い正の関連を示すのは、数学と国語それぞれについて以下の通りである。

[数学]

- 「本当は解ける問題を不注意で間違えるとくやしいと思う」
- 「テストで間違えるとくやしいと思う」
- 「授業の内容が簡単すぎると思う」
- 「テストで間違えた問題をやり直す」
- 「黒板に書かれていなくても、先生の話で大切なことはノートに書く」

[国語]

- 「本当は解ける問題を不注意で間違えると

くやしいと思う」

「テストで間違えるとくやしいと思う」

「テストで間違えた問題をやり直す」

「黒板に書かれていなくても、先生の話で大切なことはノートに書く」

いずれの場合も、「間違い」をより積極的にとらえ対応している中学生ほど学力が高くなっていることがわかる。

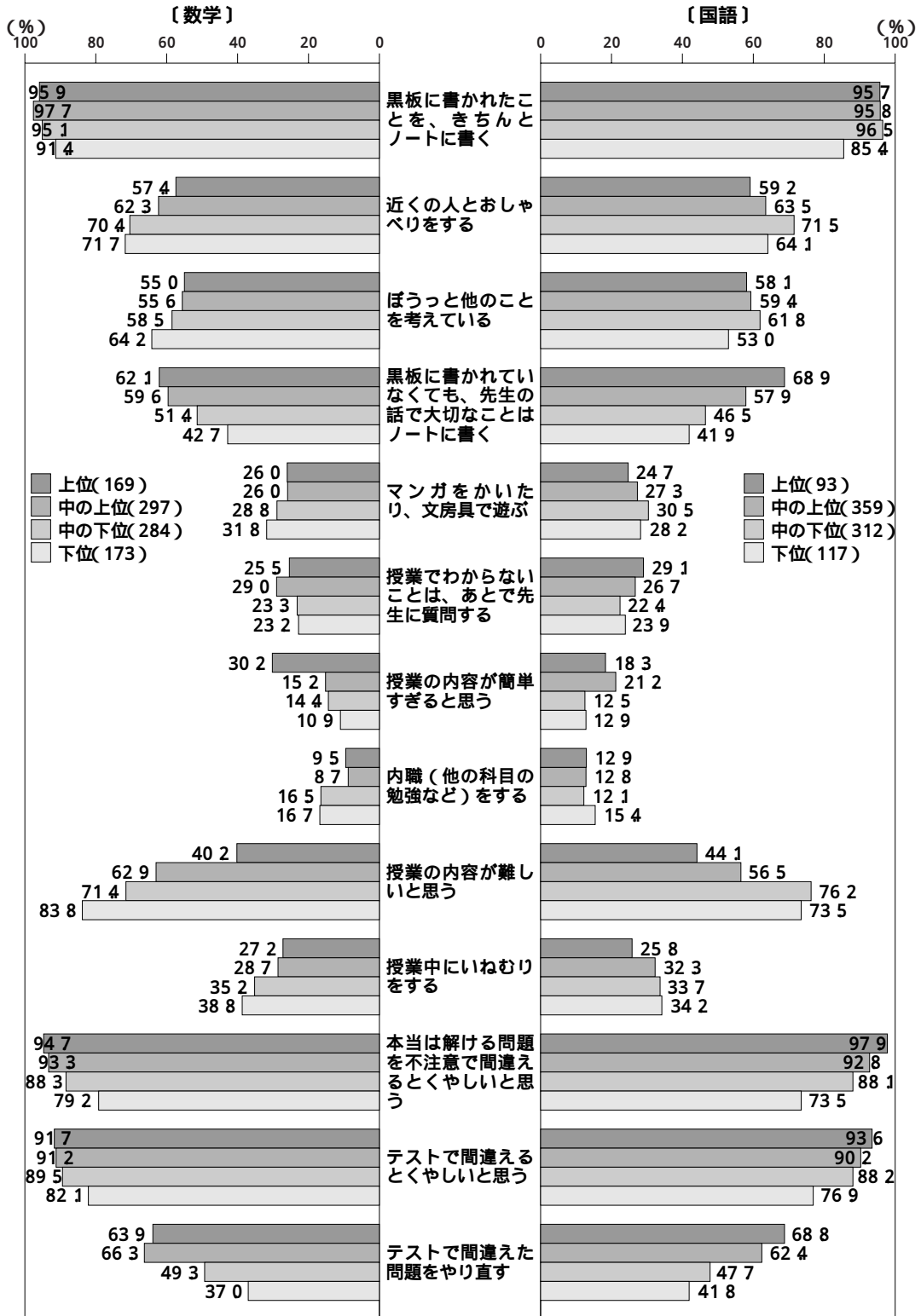
次に、数学と国語のいずれについても一貫した強い負の関連を示すのは、以下の項目である。

「授業の内容が難しいと思う」

「授業中にいねむりをする」

学力下位層の中学生ほど、授業に熱心にかかわることをしないようである。授業が次第に難しく感じられるようになり、「いねむり」によってその場をやり過ごす傾向がある。ますます授業内容がわかりづらくなり、こうして絶えざる循環が始まっていくことになる。

図3-1-4 授業の受け方(学力階層別)



注1) 数値は「よくある」と「時々ある」の合計。
 注2) ()内はサンプル数。

⑤好きな学校の勉強方法と学力

学校での好きな勉強方法と学力階層との間には、一貫した関連は部分的にしみられない。数学・国語いずれについても、学力上位層ほどドリルなどの反復的な授業や調べ学習などが好きな者が多くなる。また、国語に限って言えば、「学校外のいろいろな場所に行っている授業や調査」「先生が黒板を使いながら教えてくれる授業」が好きなのは学力上位層である。



あなたは、次にあげる学校の勉強方法は、どのくらい好きですか。

概して、「好きな学校の勉強方法」は、学力階層とあまり目立った関連を示してはいない(表3-1-1)。数学と国語に共通して関連を示したのは、「考えたり調べたりしたことをいろいろ工夫して発表すること」である。この勉強方法は学力上位層で好まれる。「遊びのような勉強」と揶揄されることが多いが、(やり方と方針によっても異なるが)実際には学力上位層で好まれる傾向がある点には留意すべきであろう。

なお、国語については、「学校外のいろい

ろな場所に行っている授業や調査」「先生が黒板を使いながら教えてくれる授業」を好むのは学力上位層である。一見矛盾する結果ではあるが、授業に対する肯定的な構えがいずれにも反映した結果であると考えられる。

さらに注目すべきは、「個人で何かを考えたり調べたりする授業」と「自分たちでテーマや調べ方を決めてする授業」はすべての層にわたって低い割合にとどまっている点である。従来の学習とは異なる特質がこれらの学習方法には含まれているのかもしれない。

表3-1-1 好きな学校の勉強方法（学力階層別）

（％）

	数 学				国 語			
	上位 (169)	中の上位 (297)	中の下位 (284)	下位 (173)	上位 (93)	中の上位 (359)	中の下位 (312)	下位 (117)
先生が黒板を使いながら教えてくれる授業	<u>78.7</u>	77.8	76.8	<u>65.9</u>	<u>86.1</u>	76.9	72.7	<u>62.3</u>
友だちと話し合いながら進めていく授業	69.2	76.0	75.4	69.4	74.2	74.1	<u>76.9</u>	<u>62.4</u>
パソコンを使ってする勉強	66.8	66.7	71.1	70.6	73.1	70.8	70.9	64.1
学校外のいろいろな場所に行っている授業や調査	68.0	68.1	64.5	66.5	<u>79.6</u>	66.6	67.3	<u>55.6</u>
グループで何かを考えたり調べたりする授業	62.1	66.4	71.5	67.0	60.2	67.1	66.0	62.4
個人で何かを考えたり調べたりする授業	45.6	43.7	42.2	42.2	41.9	44.0	40.7	38.5
いろいろな人に聞きに行っている授業や調査	40.9	40.0	42.6	44.5	<u>49.5</u>	40.6	43.3	<u>37.6</u>
ドリルやプリントを使ってする授業	<u>52.7</u>	48.8	42.6	<u>33.0</u>	42.0	<u>49.9</u>	42.3	<u>36.7</u>
自分たちでテーマや調べ方を決めてする授業	36.7	40.4	41.2	38.7	38.8	40.4	36.9	33.4
考えたり調べたりしたことをいろいろな工夫して発表すること	35.0	33.7	31.0	27.2	33.3	30.7	30.2	25.7

注1) 数値は「とても好き」と「好き」の合計。

注2) 下線は10%以上差があるもの（最大値と最小値）。

注3) ()内はサンプル数。

2 . 家での学習の様子と学力

①家庭学習の頻度と学力

平均をとれば、学力上位層ほど家庭学習の頻度も多いと言えるが、数学の学力上位層の31.4%が「家ではほとんど勉強しない」と回答しているように、学習の頻度と学力階層が必ずしも一致しているわけではない。

Q

家での勉強についてうかがいます（学習塾や予備校、家庭教師との学習は除きます）。あなたはふだん、家でどのくらい勉強をしますか。

大まかに言って、「学力上位層ほど家庭学習の頻度が多い」というおおよその傾向がみられる（図3-1-5①②）。たとえば、「週に1日くらいしかしない」と「家ではほとんど勉強しない」の合計は、国語の場合、学力階層の高い順に「上位31.2% 中の上位38.2% 中の下位42.9% 下位51.3%」となってい

る。とはいえ、「家ではほとんど勉強しない」者の割合は、直線的に変化するわけではない。数学の学力上位層の31.4%が「家ではほとんど勉強しない」と回答しており、下位層よりも高い割合を占めている。「ほとんど毎日する（週に6～7日）」の割合も学力階層に対応した変化を示さない。

図3-1-5 家庭学習の頻度（数学の学力階層別）

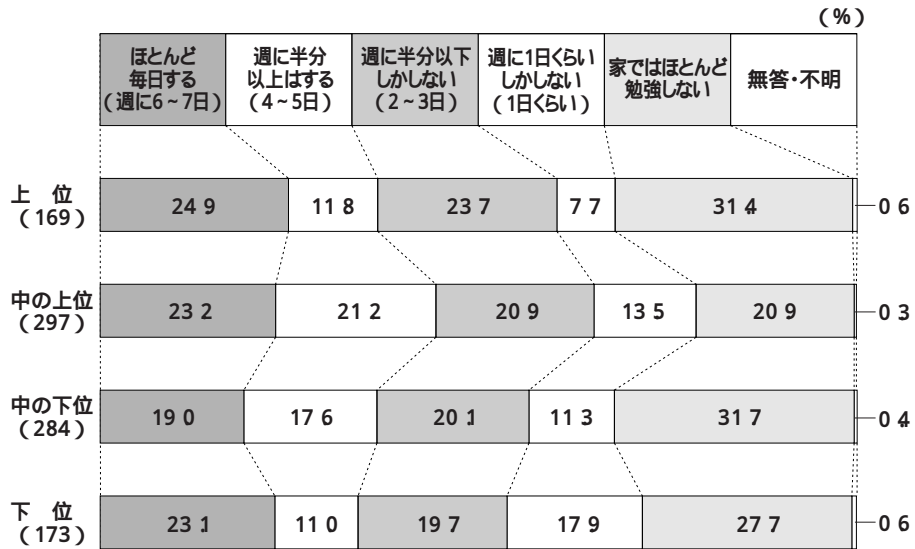
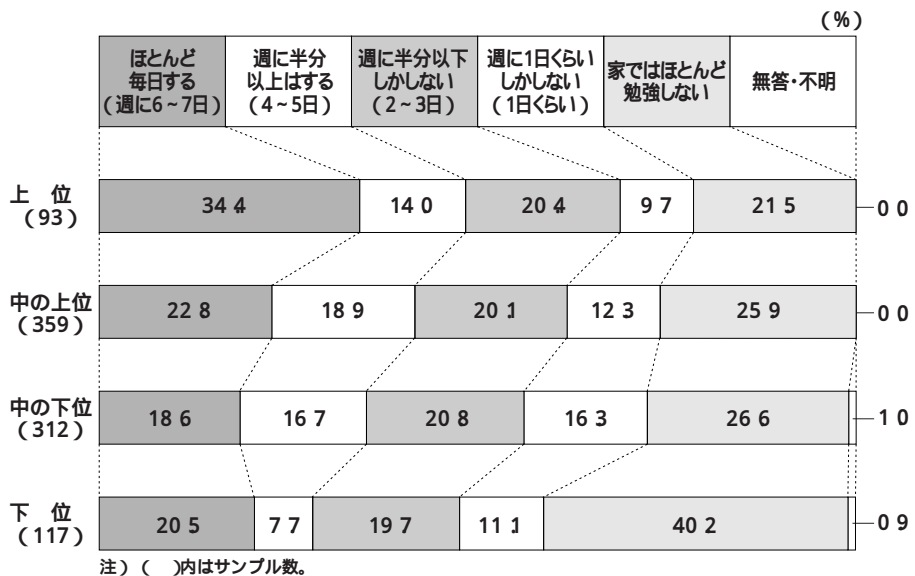


図3-1-5 家庭学習の頻度（国語の学力階層別）



②家での学習時間と学力

平日にせよ日曜日にせよ、家庭学習時間と学力階層の間には部分的な関連しかみられない。この点は、数学と国語いずれにもあてはまる。しかし、テレビの視聴時間は学力階層が下位であるほど、長くなる。

Q

あなたはふだん（月曜日～金曜日）、学校での授業以外に1日に何時間くらい勉強していますか。学習塾や予備校、家庭教師について勉強する時間も含めてください。

日曜日は、家で何時間くらい勉強しますか。学習塾や家庭教師について勉強する時間も含めてください。

ふだん（月曜日～金曜日）テレビを1日に何時間くらい見ますか。

それでは、家での学習時間の長さは、学力階層とどのように関連しているのだろうか。

「ほとんどしない」と「およそ30分」と回答した中学生の割合は、数学も国語も学力下位層で最大となっているが、直線的な関連を示しているとは言えない（図3-1-6①～④）。特に、「3時間」「3時間30分」「それ以

上」の割合に目立った差はみられない。勉強すればするほど学力が自動的に高まるというものではない。また、テレビの視聴時間が長いほど学力が低くなっており、特に国語で学力階層による違いが目立っている（図3-1-6⑤⑥）。

図3 - 1 - 6 平日の家庭学習時間（数学の学力階層別）

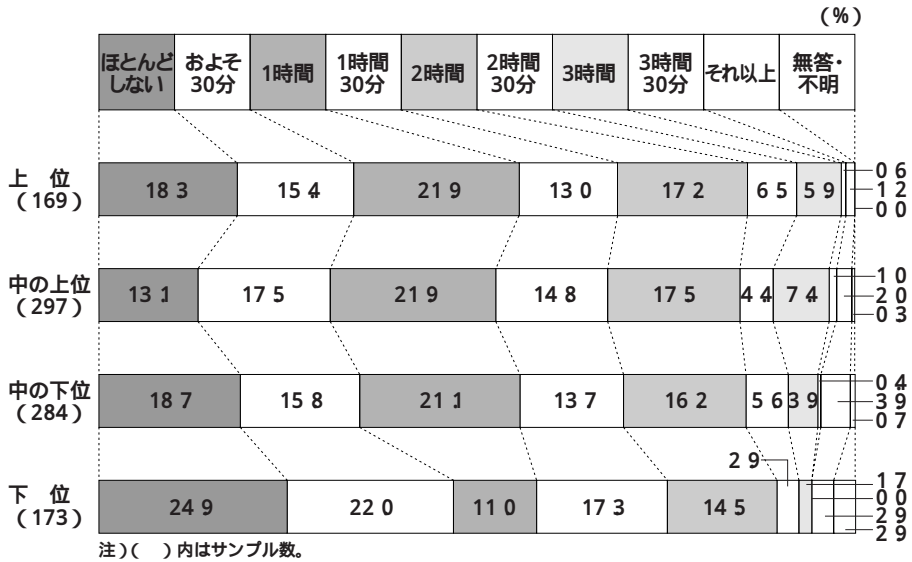


図3 - 1 - 6 平日の家庭学習時間（国語の学力階層別）

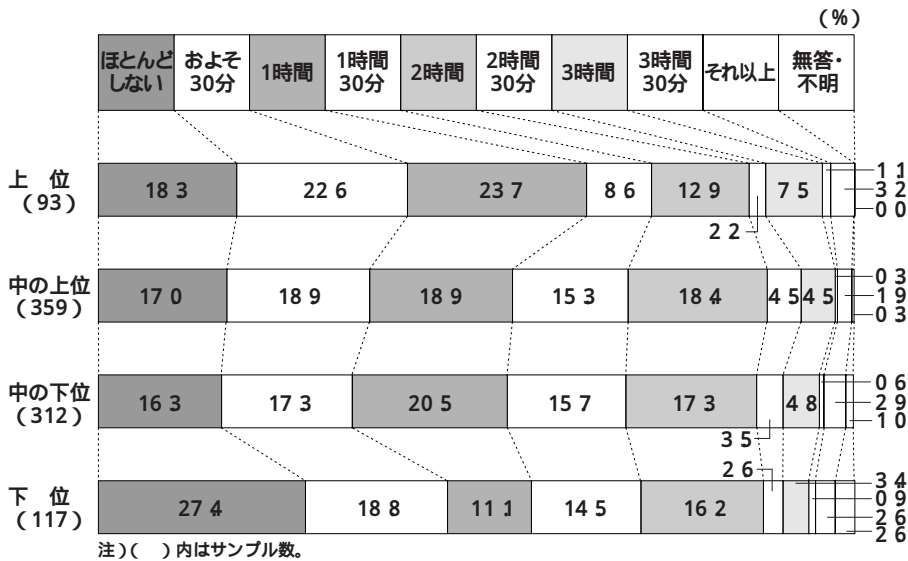


図3 - 1 - 6 休日の家庭学習時間（数学の学力階層別）

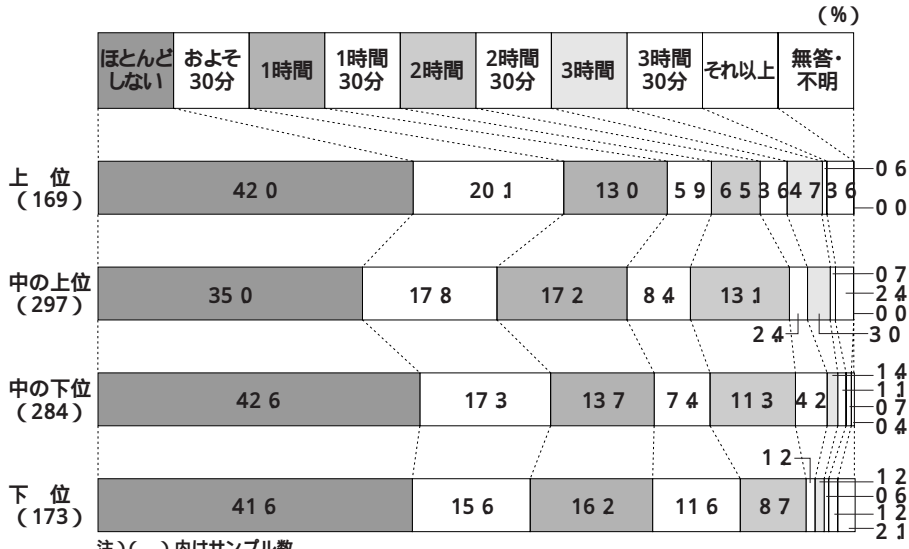


図3 - 1 - 6 休日の家庭学習時間（国語の学力階層別）

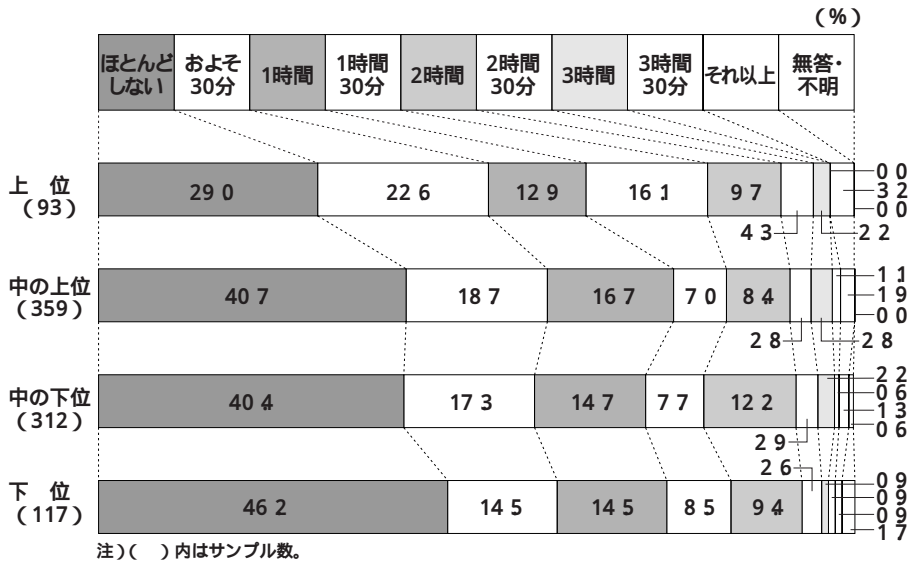


図3-1-6 平日のテレビ視聴時間（数学の学力階層別）

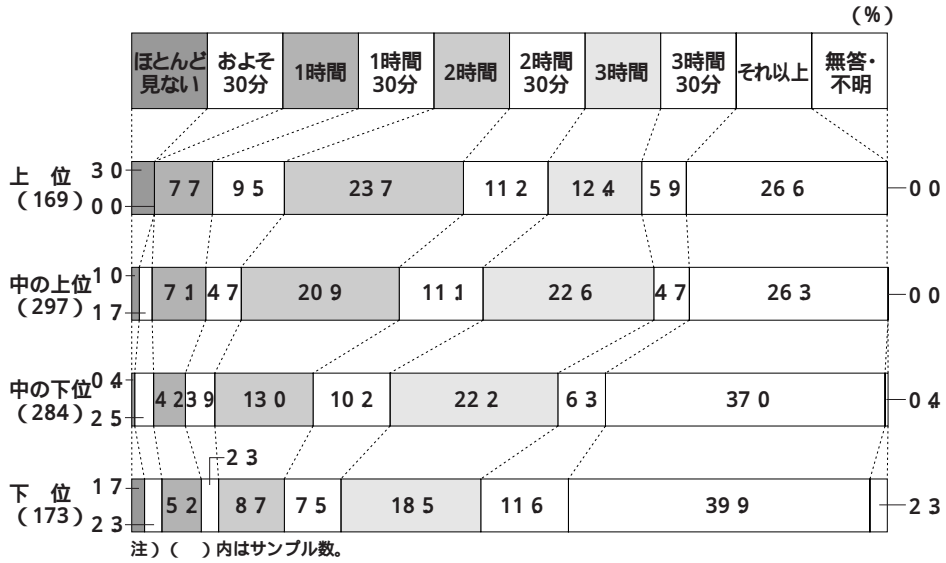
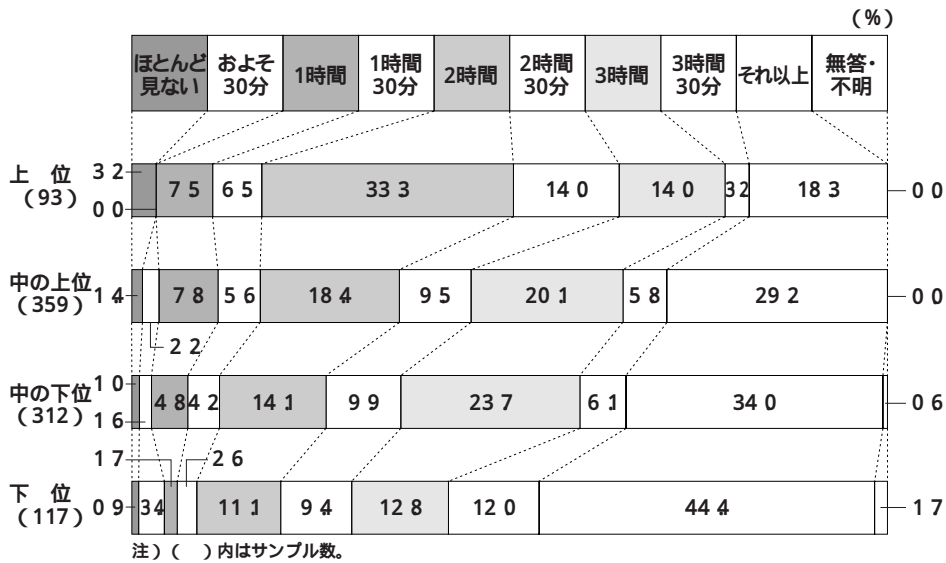


図3-1-6 平日のテレビ視聴時間（国語の学力階層別）



③ テスト勉強の開始時期と学力

学力上位層ほど、比較的早い時期からテスト勉強を開始する傾向がある。ただし、数学も国語も関連はそれほど強くなく、学力階層の上位の生徒でも直前に始めるケースもみられる。



テスト（定期考査）前には、あなたはいつ頃からテスト勉強を始めますか。

テスト勉強開始時期は、学力階層によってどのように異なっているのだろうか（図3 - 1 - 7①②）。

データによれば、「学力が高いほどテスト勉強の開始時期が早い」というおよその傾向

があり、「前日から」「当日の朝くらい」「ほとんどしない」の合計は、学力下位層でもっとも大きくなっている。ただし関連はそれほど強くなく、学力下位層でも早くから準備を始める者がかなりの割合を占めている。

図3-1-7 テスト勉強の開始時期（数学の学力階層別）

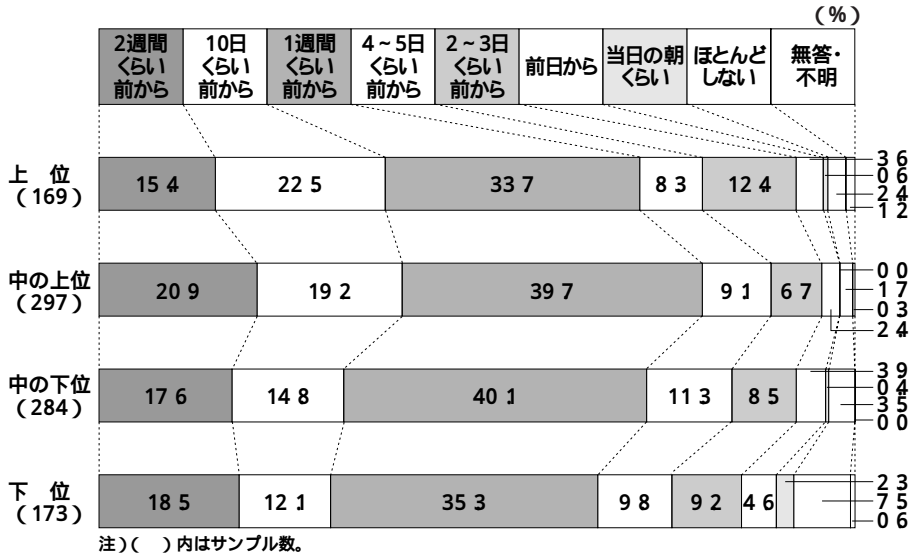
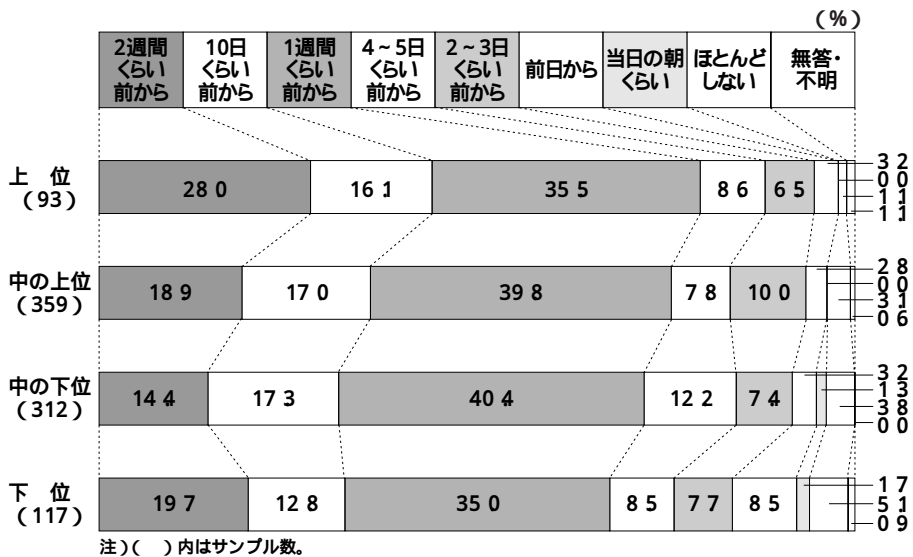


図3-1-7 テスト勉強の開始時期（国語の学力階層別）



④家での勉強内容と学力

「学校の宿題」「『進研ゼミ』のような通信教育」などの項目で、学力上位層ほど実施率が高くなる傾向がある。これに対して、「学校の授業の予習」は、学力下位層ほど実施率が高くなっている。



家では主にどんな勉強をしていますか。

複数回答方式で、家での勉強内容について尋ねたところ、回答結果と学力階層の間に若干の関連がみられた（表3-1-2①②）。

特に、数学・国語共通に関連がみられたのは、「学校の宿題」であり、学力上位層ほど実施率が高かった。さらに、部分的な例外は

あるが、「『進研ゼミ』のような通信教育」の実施率は、学力上位層ほど高くなる傾向があった。

なお、数学に限って言えば、「塾や予備校の授業の予習・復習」の実施率は、学力上位層ほど高いことがわかる。

表3 - 1 - 2 ① 家での勉強内容（数学の学力階層別）

（％）

	上位 (169)	中の上位 (297)	中の下位 (284)	下位 (173)
学校の宿題	<u>87.0</u>	86.9	79.2	<u>76.3</u>
学校の授業の予習	21.3	18.9	19.7	25.4
学校の授業の復習	43.2	42.8	35.9	37.6
塾や予備校の授業の予習・復習	<u>29.6</u>	<u>29.6</u>	21.5	<u>16.2</u>
「進研ゼミ」のような通信教育	23.7	<u>26.6</u>	19.4	<u>13.9</u>
宅配の家庭学習教材	8.9	6.7	4.9	5.8
書店などで売っている問題集・参考書	21.3	23.9	19.7	15.0
その他	7.1	6.1	4.2	5.8

注1) 複数回答。

注2) 下線は10%以上差があるもの（最大値と最小値）。

注3) () 内はサンプル数。

表3 - 1 - 2 ② 家での勉強内容（国語の学力階層別）

（％）

	上位 (93)	中の上位 (359)	中の下位 (312)	下位 (117)
学校の宿題	<u>90.3</u>	86.6	81.1	<u>73.5</u>
学校の授業の予習	16.1	20.6	22.8	25.6
学校の授業の復習	40.9	40.7	41.0	31.6
塾や予備校の授業の予習・復習	17.2	24.0	25.0	15.4
「進研ゼミ」のような通信教育	<u>33.3</u>	25.6	16.7	<u>10.3</u>
宅配の家庭学習教材	11.8	6.7	5.1	3.4
書店などで売っている問題集・参考書	21.5	21.4	18.3	16.2
その他	4.3	6.1	3.2	10.3

注1) 複数回答。

注2) 下線は10%以上差があるもの（最大値と最小値）。

注3) () 内はサンプル数。

⑤家での学習の様子と学力

「嫌いな科目の勉強も一生懸命する」かどうかと学力階層との間には強い正の関連がある。「机に向かったら、すぐに勉強にとりかかる」ことも学力上位層で比較的多い。逆に、「ながら勉強」は数学の学力にマイナスに作用していると考えられる。



家での勉強の様子についてうかがいます。

家での勉強の様子と学力階層の関連はどうだろうか（表3 - 1 - 3）。

「『勉強は学校だけですればいい』と思う」者ほど数学や国語の学力が低くなっており、数学に限って言えば、「ラジオやテレビ、CDをつけっ放しで勉強する」いわゆる「ながら

勉強」は学力下位層で目立っている。

これに対して、「嫌いな科目の勉強も一生懸命する」と回答する者は、学力上位層で比較的多くなっている。嫌いな科目でも勉強しようという意欲が持てるかどうか、実際の学力を左右しているのかもしれない。

表3 - 1 - 3 家での学習の様子（学力階層別）

(%)

	数 学				国 語			
	上位 (169)	中の上位 (297)	中の下位 (284)	下位 (173)	上位 (93)	中の上位 (359)	中の下位 (312)	下位 (117)
出された宿題をきちんとやっていく	92.9	<u>95.3</u>	93.3	<u>80.3</u>	<u>94.6</u>	93.4	92.0	<u>82.0</u>
嫌いな科目の勉強も一生懸命する	<u>78.2</u>	74.4	70.4	<u>61.8</u>	<u>81.7</u>	72.1	68.2	<u>62.4</u>
家族に言われなくても自分から進んで勉強する	60.4	62.6	62.0	59.5	<u>63.4</u>	62.1	62.8	<u>50.4</u>
ラジオやテレビ、CDをつけっ放しで勉強する	<u>51.5</u>	55.9	59.2	<u>63.6</u>	<u>68.8</u>	57.1	58.0	<u>56.5</u>
机に向かったら、すぐに勉強にとりかかる	54.5	54.9	51.4	48.0	<u>55.9</u>	53.8	52.6	<u>43.6</u>
計画を立てて勉強する	43.2	<u>47.8</u>	43.3	<u>37.5</u>	38.7	42.9	45.2	38.5
授業で習ったことは、その日のうちに復習する	43.8	38.0	38.7	35.8	40.9	<u>41.8</u>	36.5	<u>30.7</u>
授業で習ったことを、自分でもっと詳しく調べる	34.9	36.7	37.3	32.3	37.7	34.5	32.7	30.0
予習をしてから授業を受ける	30.2	31.7	32.7	37.6	28.0	29.8	33.3	35.9
自分で興味を持ったことを、学校の勉強に関係なく調べる	53.2	56.2	58.4	55.5	60.2	59.6	53.3	53.0
「勉強は学校だけですればいい」と思う	<u>37.3</u>	48.2	52.1	<u>63.0</u>	<u>35.5</u>	49.0	<u>55.1</u>	52.2

注1) 数値は「あてはまる」と「まああてはまる」の合計。

注2) 下線は10%以上差があるもの（最大値と最小値）

注3) ()内はサンプル数。

⑥ 日常生活の中での「学習」と学力

「文学作品や小説・物語を読む」「地域の図書館で本を読んだり借りたりする」という学習をする者は、数学・国語いずれについても学力上位層が多い。「歴史小説や歴史の本を読む」「新聞のニュース欄を読む」は、国語の学力のみに関連しているようである。



あなたは、ふだん（学校の授業や宿題以外で）次のことをどのくらいしますか。

学校の授業や宿題以外の学習内容と学力階層との関連についてはどうだろうか（表3-1-4）。

数学でも国語でも一貫した関連がみられたのは、「文学作品や小説・物語を読む」と「地域の図書館で本を読んだり借りたりする」の2つの項目である。たとえば、「文学作品や小説・物語を読む」（「よくする」と「時々す

る」の合計）は、国語の学力下位層では19.7%にとどまっているが、上位層は64.6%に及んでいる。さらに、「歴史小説や歴史の本を読む」と「新聞のニュース欄を読む」も国語の学力を押し上げるように働く可能性がある。学校だけでなく、家庭での間接的な学習が学力を高めていくようである。

表3-1-4 日常生活の中での「学習」（学力階層別）

	数 学				国 語			
	上位 (169)	中の上位 (297)	中の下位 (284)	下位 (173)	上位 (93)	中の上位 (359)	中の下位 (312)	下位 (117)
読みたい本を本屋で探して買う	62.7	66.3	69.7	70.5	<u>74.2</u>	68.2	69.8	<u>59.9</u>
ペットや動物・植物の世話を する	46.7	50.2	52.1	53.2	50.5	52.9	51.3	48.7
文学作品や小説・物語を読む	<u>51.5</u>	47.5	40.2	<u>36.4</u>	<u>64.6</u>	45.7	39.7	<u>19.7</u>
新聞のニュース欄を読む	36.7	<u>44.1</u>	<u>31.6</u>	32.3	<u>47.4</u>	35.7	37.5	<u>29.9</u>
地域の図書館で本を読んだり 借りたりする	30.1	<u>30.3</u>	24.7	<u>20.2</u>	<u>44.1</u>	25.9	24.1	<u>21.3</u>
歴史小説や歴史の本を読む	21.9	25.2	24.3	21.4	<u>37.7</u>	27.5	17.6	<u>15.4</u>
自然や動物・植物の本を読む	<u>18.3</u>	20.2	19.3	<u>30.1</u>	<u>17.2</u>	21.2	20.8	<u>29.9</u>
日記をつける	17.7	19.6	19.7	19.0	26.9	19.2	19.9	22.2
美術館や博物館に行く	9.4	13.8	9.5	9.3	14.0	11.4	9.0	10.2

注1) 数値は「よくする」と「時々する」の合計。

注2) 下線は10%以上差があるもの（最大値と最小値）。

注3) ()内はサンプル数。

⑦ 家庭環境と学力

「ほとんど毎日、家の人は私に『勉強しなさい』と言う」という項目を除いて、親の教育関心や親子のコミュニケーションが中学生の学力とプラスの関連を示す。



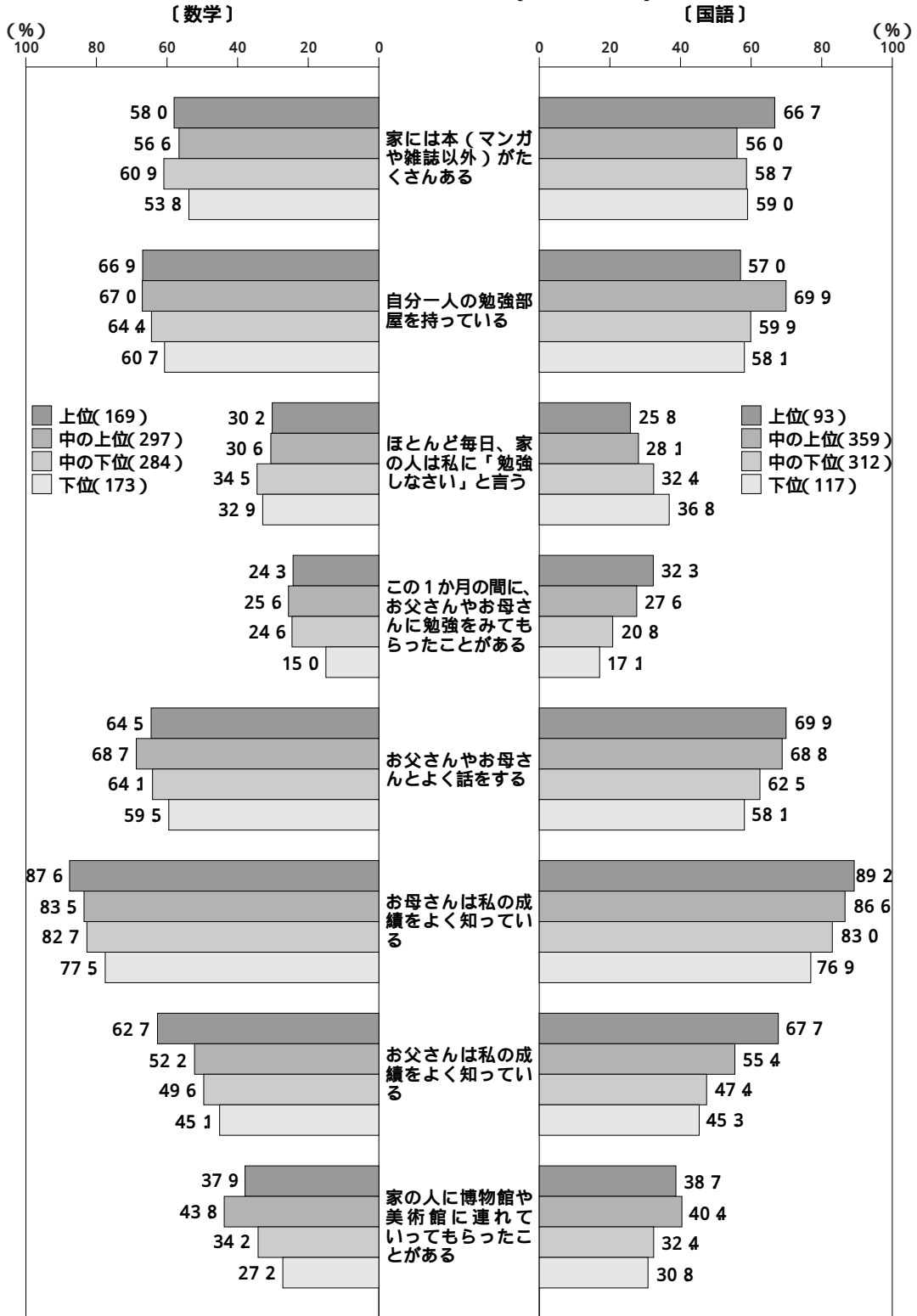
あなたの家のことについてうかがいます。

家庭環境は学力をどの程度左右しているのだろうか（図3 - 1 - 8）。

「ほとんど毎日、家の人は私に『勉強しなさい』と言う」ような家庭環境は、決して学力を高めない。もちろん、これは実際に勉強しているかどうかを反映した結果にすぎないのかもしれない。

これに対して、残りの項目は数学と国語いずれの教科の学力をも高めるように働いている可能性が高い。親の成績に対する関心や親に勉強をみてもらった経験だけでなく、「家の人に博物館や美術館に連れていってもらったことがある」という「文化的環境」も学力の高低と関連しているようである。

図3-1-8 家庭環境（学力階層別）



注1) 複数回答。
注2) ()内はサンプル数。

3 . 学校外の学習機会と学力

① 学習塾・予備校の利用と学力

通塾率は、数学においてのみ関連し、学力上位層ほど通塾率が高く、56.8%に達する。同じく数学の学力上位層ほど、「進学塾」に通う割合が大きい。少人数指導方式の塾には、学力下位層が多く通塾している。

Q

あなたは今、放課後や日曜日に、学習塾や予備校に行っていますか（そろばん、習字などの塾は除きます。「公文」のような自習教室は含めません）。

[行っている人にうかがいます]

週に何日行っていますか。

あなたの行っているのは、どんな学習塾（予備校）ですか。

あなたが行っている学習塾（予備校）は1クラス何人ですか。

次に、学習塾や予備校の利用状況と学力階層との関連について眺めてみる（表3 - 1 - 5）。

通塾しているほど学力が高くなる傾向があるが、国語については一貫した傾向はない。数学は、通塾しなければ一定レベルの習得が

難しい状況にあるのかもしれない。しかも、「高校を受験するための進学塾」に通う者ほど数学の学力が高い。比較的少人数（4人以下）の教室に通う者は、学力下位層に多くみられる。

表3 - 1 - 5 学習塾・予備校の利用状況（学力階層別）

（％）

		数 学				国 語			
		上位 (169)	中の上位 (297)	中の下位 (284)	下位 (173)	上位 (93)	中の上位 (359)	中の下位 (312)	下位 (117)
通 塾	行っている	56.8	46.5	35.9	25.4	35.5	43.2	36.2	35.9
	行っていない	42.0	50.2	60.2	63.0	61.3	53.2	57.7	56.4

以下の項目は、「行っている」と回答した生徒のみ回答。

		数 学				国 語			
		上位 (96)	中の上位 (138)	中の下位 (102)	下位 (44)	上位 (33)	中の上位 (155)	中の下位 (113)	下位 (42)
通塾日数 (週あたり)	1日	14.6	21.0	20.6	25.0	30.3	18.7	22.1	11.9
	2日	55.2	58.7	52.0	61.4	36.4	52.9	62.8	57.1
	3日	21.9	11.6	21.6	6.8	15.2	20.0	10.6	23.8
	4日	5.2	8.7	4.9	4.5	12.1	6.5	4.4	4.8
	5日	2.1	0.0	0.0	0.0	3.0	0.6	0.0	0.0
	6日	0.0	0.0	0.0	2.3	0.0	0.0	0.0	2.4
	7日(毎日)	1.0	0.0	0.0	0.0	3.0	0.0	0.0	0.0
学習塾の タイプ	学校の勉強がわかるよ うになるための補習塾	59.4	70.3	71.6	86.4	75.8	65.8	82.3	71.4
	高校を受験するための 進学塾	26.0	18.1	18.6	11.4	18.2	20.0	14.2	23.8
	その他	14.6	11.6	7.8	0.0	6.1	12.9	2.7	2.4
学習塾の 指導人数	1クラスに1人(個別 指導)	8.3	13.0	17.6	15.9	15.2	13.5	12.4	19.0
	1クラスに2～4人	13.5	17.4	21.6	36.4	18.2	17.4	21.2	26.2
	1クラスに5人以上	77.1	68.1	58.8	38.6	66.7	65.8	63.7	50.0

注1)「通塾日数」「学習塾のタイプ」「学習塾の指導人数」は、「学習塾や予備校」へ「行っている」と回答した生徒を母数としている。

注2) ()内はサンプル数。

② 諸学習機会の利用と学力

「『進研ゼミのような』通信教育」および「塾や予備校の夏期講習」を利用する者は、学力上位層に多い。「家庭教師」は、学力下位層で比較的多く利用されている。



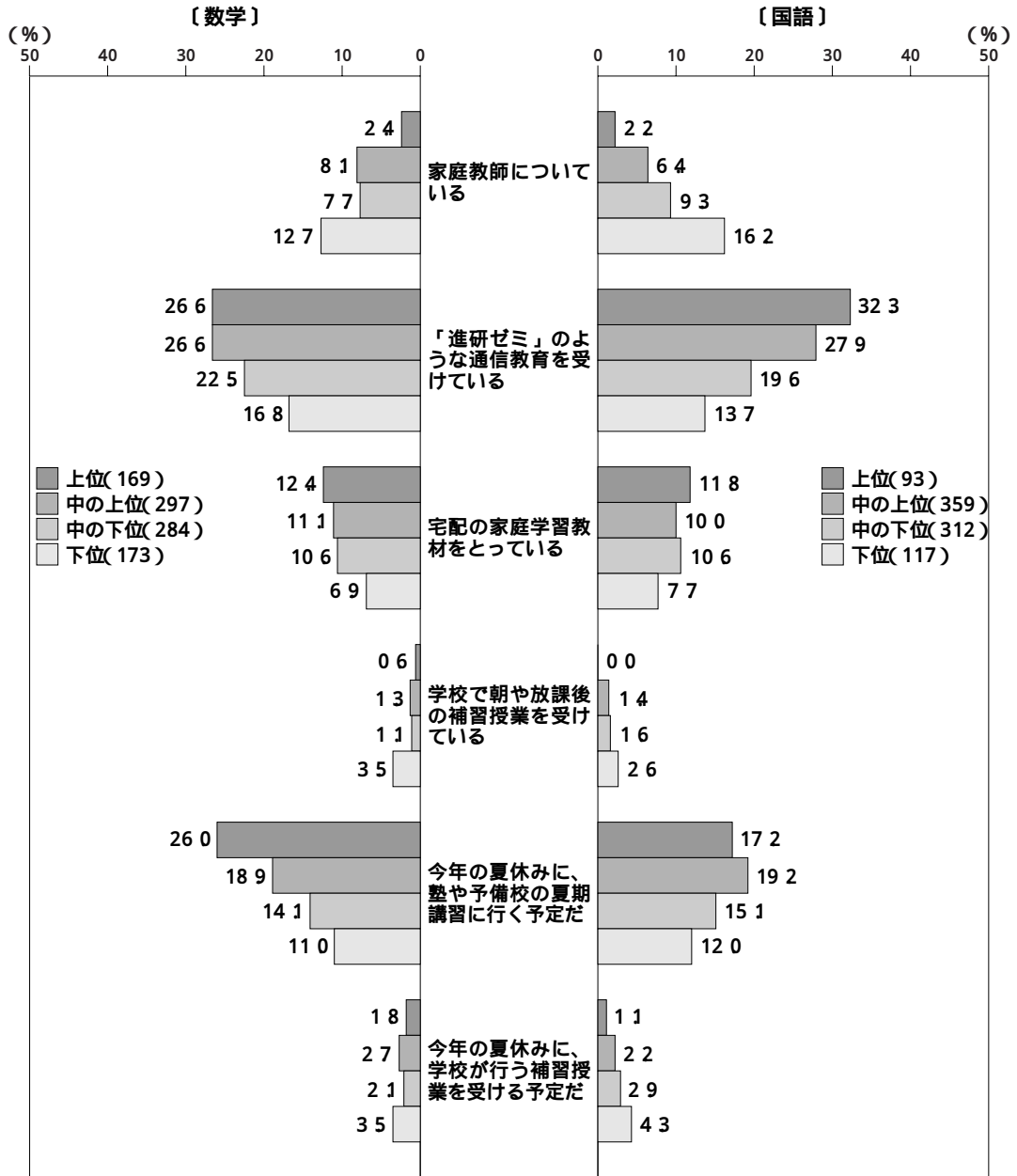
あなたは次のようなことをしていますか。

図3-1-9によれば、学習機会の利用についてはおよそ3つの特徴がある。

第一に、「『進研ゼミ』のような通信教育を受けている」割合は、数学についても国語についても学力上位層ほど大きくなっている（特に国語）。第二に、「今年の夏休みに、塾や予備校の夏期講習に行く予定だ」という割

合も学力階層に比例して大きくなっている。第三に、「家庭教師についている」のは、学力下位層で比較的多い。なお、この種のデータは、原因と結果の関係としてではなく、そのような層に利用されやすいという傾向を示すものとして読むほうが自然であろう。

図3-1-9 諸学習機会の利用（学力階層別）



注1) 複数回答。
注2) ()内はサンプル数。

4 . 学習の方法と学力

① 学習の方法と学力

家での学習の方法に関しては、「プリントや問題集で数学の問題練習をする」「英単語をくり返し書いて覚える」「教科書や参考書を整理して自分のノートを作る」という方法が、学力上位層で好まれている。



家では、どんな勉強の仕方をする人が多いですか。

ここでは、学習の方法について12の項目を設定し、学力階層ごとに分布の違いを眺めてみる(表3-1-6)。

ほぼ一貫した関連がみられたのは、「プリントや問題集で数学の問題練習をする」「英単語をくり返し書いて覚える」「教科書や参考書を整理して自分のノートを作る」の3項目であり、いずれも数学と国語の学力の高さ

と結びついている。反復的な学習は、今回のテストにおいて測定した学力を高める上で一定の役割を果たしているといってよい。ただ単に読んだり暗記するよりも、くり返し練習することや、自ら「内容を整理していく」というスタイルの学習のほうがプラスに作用する。

表3-1-6 学習の方法（学力階層別）

（％）

	数 学				国 語			
	上位 (169)	中の上位 (297)	中の下位 (284)	下位 (173)	上位 (93)	中の上位 (359)	中の下位 (312)	下位 (117)
教科書やテキストをくり返し読む	55.1	61.3	<u>62.7</u>	<u>50.8</u>	55.9	59.3	56.0	51.3
教科書や参考書にアンダーラインを引いたり、カラーマーカーを塗る	60.9	66.7	<u>70.1</u>	<u>56.7</u>	<u>58.1</u>	64.3	<u>68.3</u>	61.6
参考書を読む	27.3	36.4	36.7	37.0	32.3	32.6	37.5	31.6
辞書（英語・国語など）を引く	25.5	27.6	29.9	30.6	25.9	29.6	27.9	31.6
図鑑や事典で調べる	7.1	9.8	13.1	15.0	9.7	11.5	10.6	14.5
教科書ガイドを使う	34.9	34.4	44.0	42.2	36.6	34.5	38.5	41.8
教科書や参考書を整理して自分のノートを作る	45.6	<u>45.8</u>	44.0	<u>35.2</u>	<u>52.7</u>	47.6	37.5	<u>34.2</u>
自分で単語帳・単語カードを作って暗記する	24.8	27.0	25.3	24.2	29.0	26.5	25.3	19.7
市販の単語帳・単語カードを暗記する	18.3	21.9	21.8	22.0	19.3	20.1	20.9	23.1
プリントや問題集で数学の問題練習をする	79.3	<u>79.8</u>	76.1	<u>58.9</u>	<u>82.8</u>	77.4	72.1	<u>61.6</u>
英単語をくり返し書いて覚える	80.4	<u>84.5</u>	73.9	<u>67.7</u>	78.5	<u>83.3</u>	76.2	<u>65.8</u>
漢字をくり返し書いて覚える	75.8	79.8	71.5	75.7	74.2	78.6	77.9	72.7

注1) 数値は「よくする」と「時々する」の合計。

注2) 下線は10%以上差があるもの（最大値と最小値）。

注3) ()内はサンプル数。

②学習方法のタイプと学力

学力上位層と下位層の違いという点に注目したとき、数学と国語でほぼ同一の関連性がみられた。学力上位層では、「問題集」を中心にした「復習」が一般的で、「難しい問題をじっくり考える」タイプが多い。「苦手科目」を中心にして勉強し、「わからないところは自分で考える」ほうでもある。逆に、学力下位層では、「毎日コツコツ勉強」し、「参考書」「予習」中心で学習が進む。なお、数学と国語で若干の違いもみられる。

Q

あなたの勉強の仕方を分類するとすれば、どんなタイプになると思いますか。どちらかといえば近いほうのタイプに をつけてください。

(1か2のどちらか近いほうの番号に をつけてください)

学習方法のタイプは、学力階層とどのように関連しているのだろうか。ここでは、1(図中、左側の項目)と2(右側の項目)の12組の学習方法を設定し、いずれの方法で学習しているかが、学力によってどのように異なっているかをみている(図3 - 1 - 10)。

数学と国語で共通にみられるのは、以下の傾向である。

[学力下位層に比べて上位層のほうが多い学習方法]

(「毎日コツコツ勉強する」よりも)「試験の前にまとめて勉強する」
 (「参考書中心」よりも)「問題集中心」
 (「予習中心」よりも)「復習中心」
 (「やさしい問題を数多く解く」よりも)「難

しい問題をじっくり考える」

(「わからないところは、先生や友だちに聞く」よりも)「わからないところは、自分で考える」

(「見て覚える」よりも)「書いて覚える」
 (「得意な科目中心」よりも)「苦手な科目中心」

なお、以下は数学でのみ差がみられ、学力上位層のほうが多い項目である。

(「解説がていねいな参考書を読む」よりも)
 「要点だけ簡単にまとめたものを読む」

さらに、国語の学力上位層では、下位層に比べて、以下の学習方法をとる場合が多い。

(「読んだり、しゃべりながら覚える」よりも)「書きながら覚える」

図3-1-10 学習方法のタイプ（学力階層別）

		〔数学〕		〔国語〕	
		1	2 (%)	1	2 (%)
		毎日こつこつ勉強する	試験の前にまとめて勉強する	毎日こつこつ勉強する	試験の前にまとめて勉強する
上位	(169)	24.9	74.0	25.8	73.1
中の上位	(297)	25.6	71.7	25.1	73.3
中の下位	(284)	26.8	71.5	28.2	69.2
下位	(173)	31.8	63.0	31.6	62.4
		問題集中心	参考書中心	問題集中心	参考書中心
上位		82.8	16.6	82.8	17.2
中の上位		83.8	13.1	80.5	16.4
中の下位		73.6	23.2	78.8	17.9
下位		64.2	28.3	64.1	29.1
		学校で使う教材中心	通信教育、学習塾の教材や自分で買った教材中心	学校で使う教材中心	通信教育、学習塾の教材や自分で買った教材中心
上位		64.5	34.9	68.8	31.2
中の上位		69.4	27.9	72.1	25.1
中の下位		66.9	29.6	68.3	28.8
下位		69.9	24.3	68.4	23.9
		できるだけ暗記しようとする	できるだけ考えようとする	できるだけ暗記しようとする	できるだけ考えようとする
上位		63.3	36.1	50.5	49.5
中の上位		69.4	28.3	70.8	27.3
中の下位		68.7	28.9	71.2	26.6
下位		68.2	25.4	62.4	29.1
		書きながら覚える	読んだり、しゃべりながら覚える	書きながら覚える	読んだり、しゃべりながら覚える
上位		72.8	26.6	79.6	20.4
中の上位		73.7	23.9	72.4	25.6
中の下位		70.8	26.1	69.6	27.9
下位		68.2	25.4	67.5	24.8
		自分で整理しながら勉強する	市販の要点整理などを使う	自分で整理しながら勉強する	市販の要点整理などを使う
上位		72.8	26.6	76.3	23.7
中の上位		71.0	26.3	74.7	22.8
中の下位		65.1	31.0	68.3	28.5
下位		70.5	22.0	68.4	22.2

次ページへつづく

〔数学〕				〔国語〕			
	1		2(%)		1		2(%)
	予習中心		復習中心		予習中心		復習中心
上位 (169)	8.9		90.5	上位 (93)	9.7		90.3
中の上位 (297)	8.8		88.9	中の上位 (359)	10.9		86.6
中の下位 (284)	12.7		83.8	中の下位 (312)	12.5		84.9
下位 (173)	18.5		75.1	下位 (117)	19.7		71.8
	難しい問題をじっくり考える		やさしい問題を数多く解く		難しい問題をじっくり考える		やさしい問題を数多く解く
上位	58.0		41.4	上位	49.5		50.5
中の上位	40.7		55.9	中の上位	42.6		55.2
中の下位	34.5		62.7	中の下位	37.8		59.6
下位	27.2		67.6	下位	30.8		61.5
	わからないところは、先生や友だちに聞く		わからないところは、自分で考える		わからないところは、先生や友だちに聞く		わからないところは、自分で考える
上位	51.5		47.9	上位	54.8		45.2
中の上位	62.3		35.4	中の上位	61.6		36.2
中の下位	63.0		34.2	中の下位	60.6		37.5
下位	66.5		28.9	下位	65.8		27.4
	書いて覚える		見て覚える		書いて覚える		見て覚える
上位	79.9		19.5	上位	79.6		20.4
中の上位	74.4		23.6	中の上位	77.7		20.6
中の下位	75.7		22.2	中の下位	72.4		26.0
下位	68.2		27.7	下位	70.9		23.9
	得意な科目中心		苦手な科目中心		得意な科目中心		苦手な科目中心
上位	39.6		59.8	上位	34.4		65.6
中の上位	40.4		57.2	中の上位	44.6		53.8
中の下位	50.4		47.5	中の下位	49.0		48.4
下位	52.0		42.8	下位	53.0		41.9
	解説がいていない参考書を読む		要点だけ簡単にまとめたものを読む		解説がいていない参考書を読む		要点だけ簡単にまとめたものを読む
上位	39.6		58.6	上位	41.9		57.0
中の上位	43.4		52.9	中の上位	41.2		55.4
中の下位	43.0		53.9	中の下位	46.2		50.6
下位	52.6		40.5	下位	47.0		45.3

注1) 1(左の項目)と2(右の項目)の間の空白部分は「無答・不明」を示す。

注2) ()内はサンプル数。

第2節 中学生の学習観・成績観と学力

1. 成績観と学力

① 成績の自己評価と学力

成績の自己評価と学力階層の関連はきわめて強い。特に、数学の学力階層は、英語や国語の自己評価ともかなり強く関連している。

Q

あなたの学校での成績についてうかがいます。
現在の総合的な成績は、学年の中でどのくらいですか。
次の教科（数学、国語、英語）の現在の成績は、学年の中でどのくらいですか。

成績の自己評価は、実際の学力をどの程度正確に反映しているのだろうか。表3-2-1は、数学・国語・英語の自己評価との関連を示している。

まず、数学の自己評価と学力階層はきわめて強く関連している。学力上位層の56.8%は、数学の成績が7区分で「1（上のほう）」もしくは「2」と回答しており、「6」「7（下のほう）」はいずれもゼロである。数学の学力階層は、国語や英語の自己評価とも強い関

連を示す。

国語の学力階層に関しては、これらの関連はいずれも弱くなる。とはいえ、やはり国語の学力上位層の半数以上は「1」もしくは「2」と回答している。

数学についても国語についても中学生は自らの学力階層をかなり正確に認識しており、これらは総合的な成績の自己評価にもそのまま投影されている。

表3 - 2 - 1 成績の自己評価(学力階層別)

(%)

		数 学				国 語			
		上位 (169)	中の上位 (297)	中の下位 (284)	下位 (173)	上位 (93)	中の上位 (359)	中の下位 (312)	下位 (117)
総 合 成 績	1(上のほう)	<u>13.6</u>	4.4	0.7	0.6	<u>19.4</u>	5.3	1.6	1.7
	2	<u>36.7</u>	14.1	3.5	0.0	<u>35.5</u>	17.3	4.5	0.9
	3	<u>30.2</u>	26.6	10.2	1.7	19.4	<u>27.9</u>	10.9	3.4
	4(真ん中)	14.8	<u>33.7</u>	30.6	10.4	16.1	<u>25.3</u>	<u>25.3</u>	17.1
	5	1.2	16.8	25.0	<u>28.9</u>	5.4	13.4	25.6	<u>28.2</u>
	6	1.2	2.7	18.3	<u>30.6</u>	2.2	7.5	<u>20.5</u>	19.7
	7(下のほう)	0.6	0.7	10.9	<u>26.6</u>	0.0	2.5	10.3	<u>27.4</u>
数 学	1(上のほう)	<u>26.6</u>	5.7	1.4	0.6	<u>16.1</u>	10.0	3.8	2.6
	2	<u>30.2</u>	13.5	3.9	1.2	<u>26.9</u>	13.4	5.1	2.6
	3	24.3	<u>24.6</u>	10.9	1.2	<u>23.7</u>	20.1	12.2	10.3
	4(真ん中)	12.4	<u>30.0</u>	27.8	11.6	16.1	<u>25.1</u>	24.4	16.2
	5	4.7	20.2	<u>26.4</u>	19.7	11.8	17.5	<u>21.2</u>	16.2
	6	0.0	4.7	19.0	<u>30.1</u>	3.2	8.1	18.9	<u>26.5</u>
	7(下のほう)	0.0	0.7	9.5	<u>33.5</u>	2.2	4.7	12.8	<u>23.9</u>
国 語	1(上のほう)	<u>13.6</u>	3.7	2.1	1.7	<u>18.3</u>	5.3	1.3	1.7
	2	<u>26.6</u>	11.8	6.7	1.7	<u>32.3</u>	17.0	2.9	1.7
	3	26.6	<u>27.6</u>	15.1	2.9	<u>25.8</u>	24.2	16.3	7.7
	4(真ん中)	23.7	<u>37.7</u>	29.9	22.5	16.1	<u>34.0</u>	32.7	16.2
	5	5.9	13.1	25.0	<u>30.1</u>	5.4	11.4	26.6	<u>29.1</u>
	6	1.8	5.1	13.7	<u>24.3</u>	2.2	5.6	14.4	<u>23.9</u>
	7(下のほう)	0.6	0.7	6.7	<u>13.9</u>	0.0	1.7	4.5	<u>17.1</u>
英 語	1(上のほう)	<u>20.1</u>	9.1	2.8	1.2	<u>17.2</u>	10.6	3.5	2.6
	2	<u>31.4</u>	14.5	6.0	4.6	<u>30.1</u>	16.7	7.1	4.3
	3	18.3	<u>19.5</u>	14.4	5.2	18.3	<u>18.4</u>	11.9	6.8
	4(真ん中)	16.6	<u>24.6</u>	20.4	14.5	21.5	20.9	<u>23.4</u>	12.0
	5	7.1	20.2	<u>20.8</u>	17.3	4.3	15.9	<u>20.8</u>	17.1
	6	1.8	9.1	18.7	<u>26.0</u>	6.5	10.0	17.0	<u>31.6</u>
	7(下のほう)	3.0	2.7	15.8	<u>28.9</u>	2.2	6.1	14.7	<u>24.8</u>

注1) 下線は最大値。

注2) ()内はサンプル数。

②とりたいと思う成績と学力

とりたいと思う成績の水準は、実際の学力階層によってある程度枠づけられている。学力上位層では、「1（上のほう）」と「2」が合わせておよそ9割を占めるが、下位層では3割程度である。



あなたはどのくらいの成績がとれたらいいと思いますか。

それでは、「とりたい成績」は、学力階層とどのようにかかわっているのだろうか。

やはり、希望の成績水準も明らかに現在の学力の影響を受けている(図3-2-1①②)。

たとえば、国語の学力上位層の場合、およそ9割が「1」もしくは「2」と回答しているのに対して、下位層では3割程度にとどまっている。数学でも同様な傾向がみられる。

図3-2-1 とりたいと思う成績（数学の学力階層別）

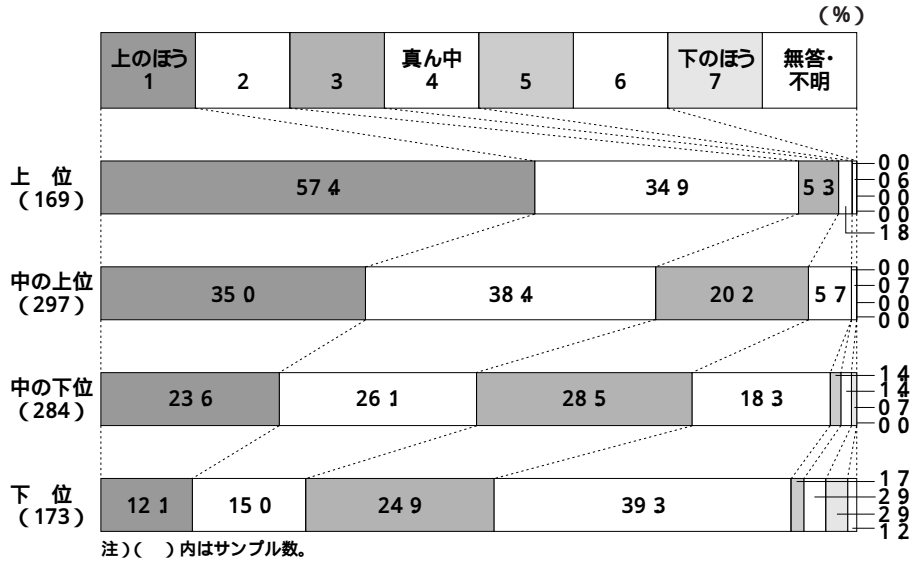
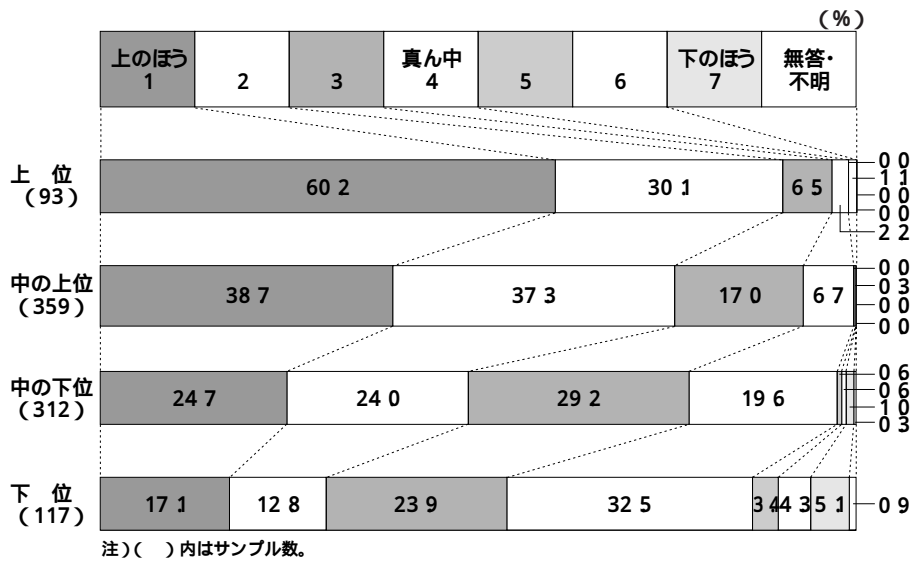


図3-2-1 とりたいと思う成績（国語の学力階層別）



③がんばればとれると思う成績と学力

「がんばればとれると思う成績」もまた、学力階層と強い関連を示している。学力上位層では、「1（上のほう）」と「2」が合わせて8割台であるが、下位層では1～2割程度にとどまる。



現在の成績は別として、あなたがうんとがんばれば、どのくらいの成績がとれると思いますか。

「（現在の成績は別として）がんばればとれる成績」は、学力階層とどの程度関連しているのだろうか（図3-2-2①②）。

端的に言って、前項の「とれたらいい成績」よりも学力階層によって強く規定されていることがわかる。特に、数学の場合には、実際

の学力階層によって自己概念が枠づけられる度合いが強い。数学の学力上位層の86.4%が「1（上のほう）」「2」と回答しているのに対して、下位層の場合にはわずかに13.9%にとどまっている。国語の場合には、両者の開きはいくらか縮まっている。

図3 - 2 - 2 がんばればとれると思う成績（数学の学力階層別）

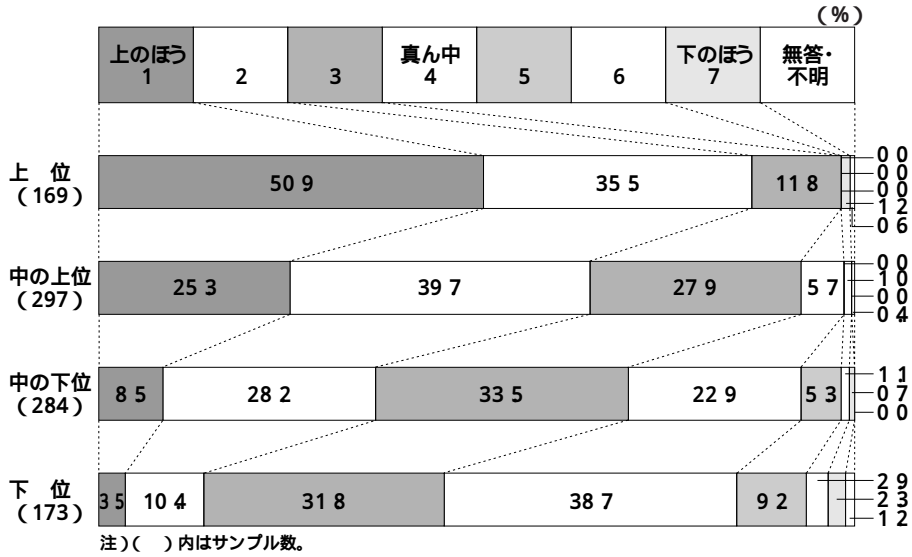
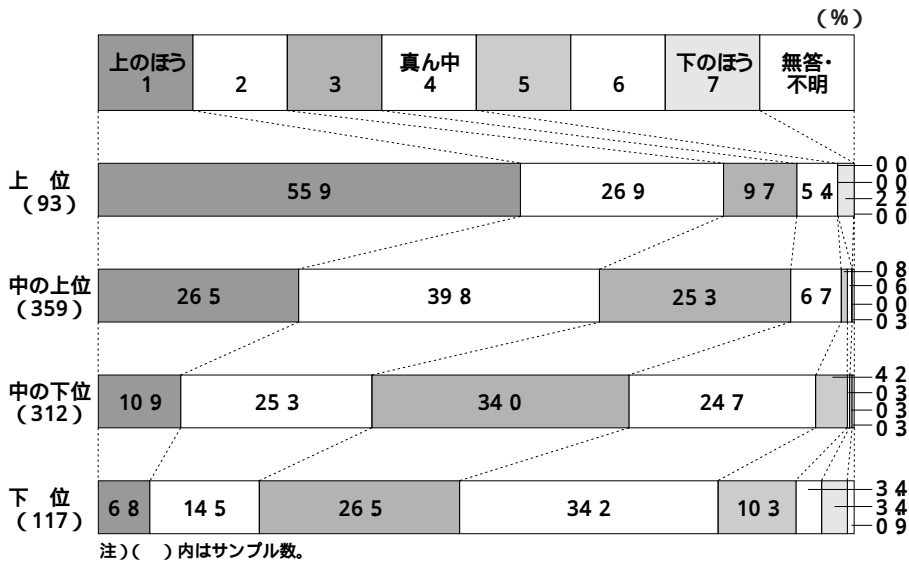


図3 - 2 - 2 がんばればとれると思う成績（国語の学力階層別）



④成績観・学力観と学力

成績観・学力観は、学力階層によって大きく変わってくる。学力下位層ほど、ほどほどの進路でよしとする傾向が強く、上位層ほど「できるだけいい高校や大学」を志向する。



あなたは、次のように思うことがありますか。

ここでは、成績観・学力観に関して6つの項目を立てて、学力階層との関連をみた（表3-2-2）。

データによると、学力階層によって成績観・学力観が大きく異なっていることがわかる。学力が低くなるにつれて、「将来ふつうに生活するのに困らないくらいの学力があればいい」

「ばい」「今は勉強することが一番大切なことだ」「学校生活が楽しければ、成績にはこだわらない」「どこかの高校や大学・短期大学に入れる学力があればいい」という回答が多くなる。逆に、「できるだけいい高校や大学に入れるよう、成績を上げたい」という意識は学力上位層ほど強まる。

表3-2-2 成績観・学力観（学力階層別）

(%)

	数 学				国 語			
	上位 (169)	中の上位 (297)	中の下位 (284)	下位 (173)	上位 (93)	中の上位 (359)	中の下位 (312)	下位 (117)
将来ふつうに生活するのに困らないくらいの学力があればいい	<u>47.9</u>	63.3	69.7	<u>70.5</u>	<u>47.3</u>	61.0	<u>69.9</u>	69.2
できるだけいい高校や大学に入れるよう、成績を上げたい	<u>63.3</u>	58.6	53.9	<u>50.3</u>	61.3	57.7	54.2	53.0
どこかの高校や大学・短期大学に入れる学力があればいい	<u>39.6</u>	46.8	<u>52.1</u>	48.0	43.0	47.4	48.4	52.1
学校生活が楽しければ、成績にはこだわらない	<u>23.1</u>	27.9	35.2	<u>35.8</u>	<u>26.9</u>	30.6	30.8	<u>41.0</u>
今は勉強することが一番大切なことだ	<u>13.0</u>	23.9	27.1	<u>33.5</u>	22.6	<u>18.7</u>	27.6	<u>34.2</u>
そんなに勉強しなくても、なんとか進学できるだろう	18.9	14.1	20.1	18.5	16.1	17.0	18.3	22.2

注1) 複数回答。

注2) 下線は10%以上差があるもの（最大値と最小値）。

注3) ()内はサンプル数。

⑤ よい成績に大切だと思うことと学力

学力上位層では、よい成績をとるために大切な条件として「運」をあげる者が比較的多い。単一回答では、学力下位層で「上手な勉強法」をあげる割合が小さくなる点が目を引く。



よい成績をとるためには、次のことはどれくらい大切だと思いますか。

次に、「よい成績をとるために大切なこと」と学力階層との関連を眺めてみる（表3 - 2 - 3）

同表は、「とても大切」と「まあ大切」と回答した割合を学力階層の「上位」～「下位」層ごとに示している。学力上位層で一貫して多いのは、「運」である。数学と国語いずれについても学力上位層と下位層の間に20ポイント程度の開きが見られる。「教え方の上手

な先生」をあげる者も学力上位層で多い。国語については、「人に負けたくないという気持ち」も学力上位層ほど多くなっている。

10項目中でもっとも大切だと思うもの1つを答えてもらう単一回答では、全般的に「努力」をあげる割合が多い。特に国語の学力上位層で顕著である。さらに、学力下位層で「上手な勉強法」をあげる割合が上位層に比べ半減している点が目を引く。

表3 - 2 - 3 よい成績に大切だと思うこと(学力階層別)

(%)

	数 学				国 語			
	上位 (169)	中の上位 (297)	中の下位 (284)	下位 (173)	上位 (93)	中の上位 (359)	中の下位 (312)	下位 (117)
努力	97.1 (43.8)	98.6 (53.5)	96.8 (42.6)	94.8 (48.6)	99.0 (52.7)	98.1 (49.3)	96.8 (45.5)	89.7 (44.4)
運	<u>73.4</u> (5.9)	61.9 (2.4)	62.3 (2.8)	56.6 (4.6)	<u>69.9</u> (3.2)	66.8 (2.5)	65.4 (3.2)	51.3 (6.8)
上手な勉強法	96.4 (18.3)	97.3 (16.5)	96.5 (17.6)	89.6 (9.8)	96.8 (20.4)	<u>97.5</u> (17.8)	94.9 (16.0)	<u>84.6</u> (9.4)
自分に合った問題集・参考書	77.5 (0.0)	80.5 (1.0)	86.2 (0.7)	79.2 (1.2)	78.5 (0.0)	81.6 (0.6)	<u>86.9</u> (1.3)	69.3 (0.9)
授業をしっかり聞く	97.1 (18.3)	99.6 (16.2)	97.5 (19.0)	96.5 (13.9)	98.9 (16.1)	98.1 (17.8)	98.7 (17.0)	90.6 (15.4)
生まれつきの能力	48.0 (3.6)	47.5 (2.0)	45.8 (2.8)	46.2 (2.9)	<u>53.8</u> (3.2)	45.6 (1.4)	49.0 (3.5)	<u>40.1</u> (3.4)
人に負けたくないという気持ち	81.6 (3.6)	86.5 (3.4)	81.4 (6.3)	79.8 (4.6)	86.0 (2.2)	84.4 (3.6)	82.7 (6.1)	76.1 (3.4)
家族の協力	52.7 (0.6)	49.8 (0.0)	48.9 (0.4)	51.4 (1.7)	48.4 (0.0)	54.9 (0.6)	49.3 (0.3)	52.1 (2.6)
よい学習塾や予備校に行く	41.4 (0.0)	<u>38.1</u> (0.3)	<u>38.1</u> (0.4)	<u>48.5</u> (1.7)	<u>30.1</u> (0.0)	34.8 (0.6)	<u>48.0</u> (1.0)	39.4 (0.0)
教え方の上手な先生	81.6 (5.9)	82.4 (4.0)	75.8 (4.6)	73.4 (4.6)	80.7 (2.2)	<u>81.4</u> (5.0)	77.9 (3.8)	<u>69.2</u> (4.3)

注1)各セル内の上段の数値は、「とても大切」と「まあ大切」の合計。

注2)各セル内の下段の()内の数値は、単一回答の割合。

注3)下線は10%以上差があるもの(最大値と最小値)。

注4)()内はサンプル数。

2 . 学習していて感じることと学力

いずれの項目についても、学力上位層で該当する割合が大きい。学ぶことを通して、驚きや感動などを増幅させている。数学にかかわる項目を除くと、ほとんどの項目で国語の学力階層のほうが強く関連している点が注目される。



あなたは勉強していて、次のように感じることはありますか。

学習していて感じることは、学力階層とどのようにかかわっているのだろうか。次に、この点に検討を加える（表3 - 2 - 4）。

ほとんどの項目で、学力上位層での該当率が高くなっている。数学・国語のいずれについても比較的一貫した関連がみられるのは、「生き物や自然を『すばらしい』とか『ふしぎだな』と感じる」「社会のしくみや歴史のできごとを『すばらしい』とか『ふしぎだな』

と感じる」「数学の問題の解き方を考えたり工夫したりするのが好きだ」「英語を使って外国の人と話したり、手紙を書いたりしてみたい」である。学ぶことを通して感動したり知的好奇心をふくらませるには、（必須条件ではないが）一定の学力が前提となる場合があるのかもしれない。なお、国語と数学の一方でのみ関連を示す項目もある。

表3-2-4 学習していて感じること(学力階層別)

(%)

	数 学				国 語			
	上位 (169)	中の上位 (297)	中の下位 (284)	下位 (173)	上位 (93)	中の上位 (359)	中の下位 (312)	下位 (117)
生き物や自然を「すばらしい」とか「ふしぎだな」と感じる	<u>72.8</u>	64.6	64.8	<u>60.7</u>	<u>76.3</u>	65.4	62.1	<u>59.8</u>
社会のしくみや歴史のできごとを「すばらしい」とか「ふしぎだな」と感じる	<u>55.0</u>	54.9	53.5	<u>40.4</u>	<u>60.2</u>	56.6	46.5	<u>39.3</u>
数学の考え方や解き方を「すばらしい」とか「ふしぎだな」と感じる	<u>60.3</u>	46.2	42.9	<u>33.0</u>	<u>58.1</u>	45.7	<u>36.6</u>	42.7
国語の教科書を読んでいて、登場人物や書いてある内容に興味がわいてくる	56.8	<u>60.9</u>	54.9	<u>42.2</u>	<u>72.1</u>	63.0	50.3	<u>31.6</u>
生き物や自然のことを調べたり考えたりするのが好きだ	49.7	48.1	44.3	50.3	<u>53.8</u>	49.5	46.5	<u>43.5</u>
社会のしくみや歴史のできごとを調べたり考えたりするのが好きだ	38.5	<u>41.1</u>	35.2	<u>30.0</u>	<u>52.7</u>	41.8	32.4	<u>23.9</u>
数学の問題の解き方を考えたり工夫したりするのが好きだ	<u>55.0</u>	34.7	28.9	<u>19.1</u>	<u>39.8</u>	37.0	28.5	<u>23.0</u>
自分や相手の気持ち・考えをうまく出し合えたらいいと思う	65.7	<u>69.0</u>	61.6	<u>56.0</u>	<u>67.8</u>	64.1	63.5	<u>49.6</u>
英語を使って外国の人と話したり、手紙を書いたりしてみたい	<u>51.5</u>	50.5	44.7	<u>40.4</u>	<u>55.9</u>	46.7	47.1	<u>35.9</u>

注1) 数値は「よくある」と「時々ある」の合計。

注2) 下線は10%以上差があるもの(最大値と最小値)。

注3) ()内はサンプル数。

3 . 学習上の悩みと学力

学習をめぐる悩みは、学力が低いほど多くなり、多岐にわたってくる。数少ない例外として、学ぶことの意味・有用性にかかわる疑問があり、これは学力階層を問わず広がっている。また、「小学校までにもっと勉強しておけばよかった」という後悔の念は学力下位層ほど強い。学力下位層にある中学生も勉強することから完全に降りているわけではないようである。

Q

あなたは勉強について、次のように思うことがありますか。

学習上の悩みをここでは、15項目について尋ねた。概して、学力階層との間にきわめて強い関連がみられた（図3 - 2 - 3）。

少なくともここであげた悩みに関しては、学力が低くなるほど悩みを抱く割合が多くなる。学力下位層で多くみられた項目を該当率の順に掲げてみる（左：数学、右：国語）。

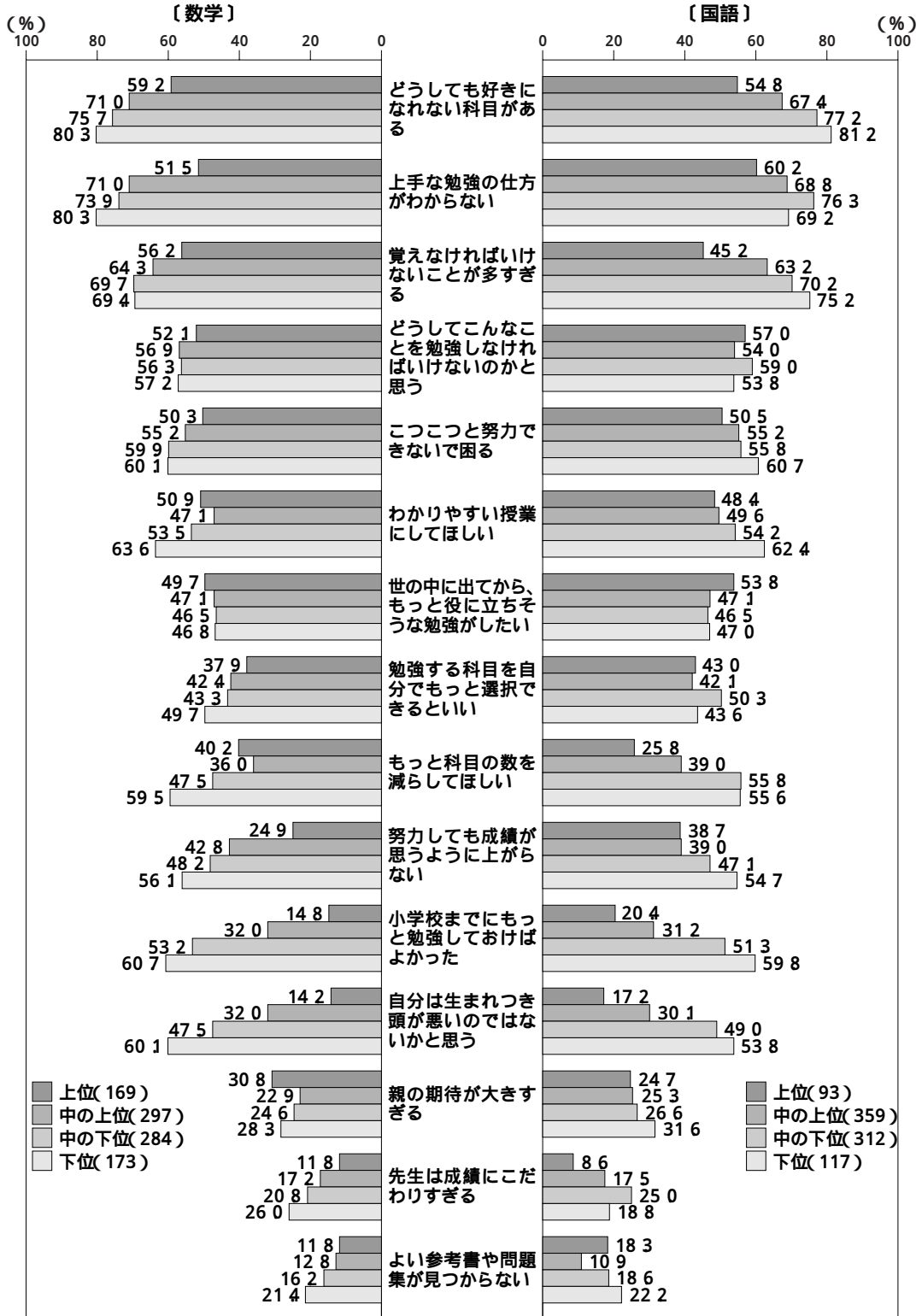
- ①「どうしても好きになれない科目がある」
（80.3%、81.2%）
- ②「上手な勉強の仕方がわからない」
（80.3%、69.2%）
- ③「覚えなければいけないことが多すぎる」
（69.4%、75.2%）
- ④「こつこつと努力できないで困る」
（60.1%、60.7%）
- ⑤「小学校までにもっと勉強しておけばよかった」
（60.7%、59.8%）

これらの悩みは、学力の低い中学生にとって深刻である。現在の勉強そのものへの不満もさることながら、自分の現状への不満がないまぜになった悩みである。

こうした悩みに比べて、「どうしてこんなことを勉強しなければいけないのかと思う」とか「世の中に出てから、もっと役に立ちそうな勉強がしたい」といった悩みは学力階層にかかわらず半数前後の中学生が共通に抱いている悩みである。学力が高まっても解決し得ないだけに、これらの悩みは厄介で根本的な悩みなのではないだろうか。

さらに、「親の期待が大きすぎる」もまた学力階層による違いが小さい。しかし、悩みとしてあげる中学生の割合は4分の1程度にとどまっており、中学生への親からのプレッシャーは必ずしも強いとは言えない。

図3-2-3 学習上の悩み（学力階層別）



注1) 複数回答。
注2) ()内はサンプル数。

4 . 進路・進学意識と学力

① 高校への進学と学力

高校進学希望率は、学力下位層を除けば95%前後である。「推薦入試」志向は、学力中位2層で比較的強い。学力上位層ほど、「進学状況のよい高校」や「体験学習などのカリキュラム改革実践校」を好む。学力下位層は、「さほど努力を要さずに入学でき、校則も緩やかな高校」に魅力を感じている。

Q

あなたは中学卒業後、高校（高等専門学校を含む）に進学したいと思っていますか。

[思っている人にうかがいます]

どの学科に進学したいですか。

どのような高校に進学したいですか。

高校へ進学する方法には、大きく分けて「推薦入試」と「一般入試」の2つの方法があります。あなたは、どちらの方法で進学したいですか。

高校への進学希望状況は、学力階層と強く関連している（表3-2-5）。

高校進学希望率（高校に進学したいと思うかという質問に「思っている」と回答する割合）は、学力下位層では8割前後であるが、他は95%前後に達している。「推薦入試」志向は、学力階層の中位2層で比較的強くなっている。「普通科」志向の強さは各層に共通

している。学力上位層ほど、「進学状況のよい高校」を好むが、それ以上に注目されるのは「体験学習などのカリキュラム改革実践校」へのニーズが比較的高い点である。逆に、学力下位層は、「さほど努力を要さずに入学でき、校則も緩やかな高校」に魅力を感じている。

表3-2-5 高校への進学希望(学力階層別)

(%)

		数 学				国 語			
		上位 (169)	中の上位 (297)	中の下位 (284)	下位 (173)	上位 (93)	中の上位 (359)	中の下位 (312)	下位 (117)
進学 高校 への 希望	思っている	97.0	97.6	94.0	85.0	98.9	96.7	95.5	79.5
	思っていない	1.2	2.0	4.2	11.6	1.1	1.9	3.5	16.2

以下の項目は、「思っている」と回答した生徒のみ回答。

		上位 (164)	中の上位 (290)	中の下位 (267)	下位 (147)	上位 (92)	中の上位 (347)	中の下位 (298)	下位 (93)
希望する 学科	普通科	75.6	73.8	67.0	68.7	83.7	72.3	65.1	74.2
	専門学科(商業科や工業科など)	17.7	21.7	26.6	24.5	13.0	22.5	28.5	20.4
	総合学科	1.8	2.4	3.4	1.4	2.2	2.9	2.0	1.1
	その他の学科	3.0	1.7	2.6	3.4	1.1	1.2	3.0	2.2
希望する 高校の タイプ	自分の好きな教科・科目を自由に選択できる高校	53.7	58.3	56.2	63.9	60.9	55.0	58.7	62.4
	職業資格を取るのに有利な高校	44.5	50.7	52.8	46.3	45.7	49.3	53.0	36.6
	進学状況のよい高校	44.5	33.1	32.2	24.5	47.8	31.1	31.9	26.9
	校則がきびしくない高校	44.5	47.6	50.2	54.4	48.9	46.7	52.3	52.7
	みんなで楽しめる学校行事が豊富な高校	60.4	62.4	59.2	64.6	63.0	59.1	62.1	66.7
	それほど努力しなくても入学できる高校	9.1	17.6	29.2	35.4	8.7	17.9	30.2	35.5
	体験的な学習などのカリキュラムに特色のある高校	23.2	21.0	13.1	12.9	28.3	21.0	13.1	10.8
	部活動のさかんな高校	39.6	37.6	42.7	42.9	39.1	39.2	40.9	52.7
	その他	10.4	3.4	2.6	4.8	9.8	3.5	5.0	2.2
入試 方法 する	できれば推薦入試で	53.0	58.6	56.6	50.3	50.0	56.8	60.1	50.5
	できれば一般入試で	44.5	40.7	41.6	47.6	48.9	42.7	38.9	45.2

注1)「希望する学科」「希望する高校のタイプ」「希望する入試方法」は、「高校への進学希望」に「思っている」と回答した生徒を母数としている。

注2)「希望する高校のタイプ」は複数回答。

注3)「希望する入試方法」は、希望に近いほうを選択。

注4)()内はサンプル数。

②希望する進学段階と学力

希望する進学段階と学力階層にはきわめて強い関連がある。学力上位層ほど「四年制大学まで」「大学院まで」を希望する者が多く、逆に「高校まで」は下位層ほど多い。とはいえ、数学の学力上位層の13.4%、国語の上位層の10.9%は「高校まで」という希望を持っており、この数値は「専門学校・各種学校まで」を加えると4分の1程度に達する。

Q

あなたは中学卒業後、高校（高等専門学校を含む）に進学したいと思っていますか。

[思っている人にうかがいます]

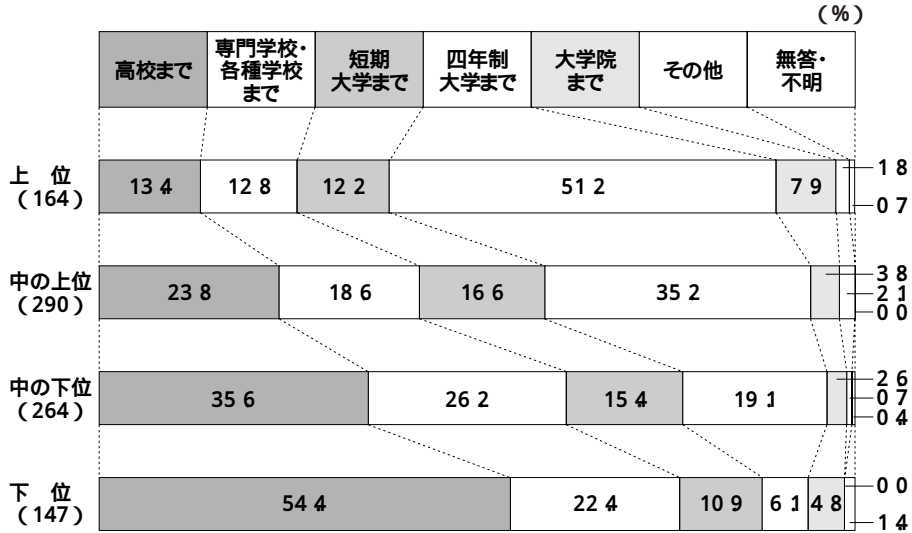
あなたは将来、どの学校まで進みたいですか。

最後に、中学生が希望する最終学校段階と学力階層の関係をみていく（図3-2-4①②）。

学力上位層にもっとも多いのは、「四年制大学まで」で、数学・国語いずれについても5割前後に上っている。「大学院まで」を希望する者も7.9~9.8%を数える。学力下位層で「四年制大学まで」を希望する中学生は、

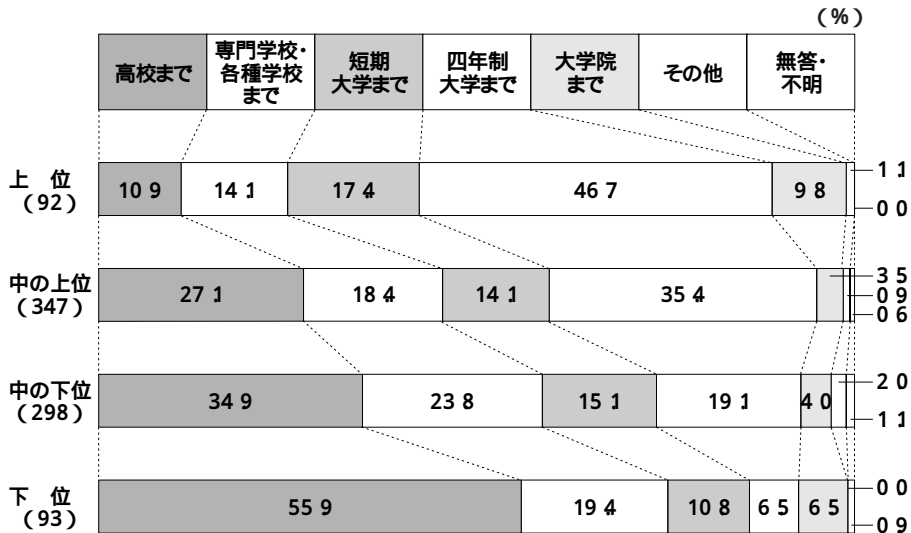
6%台にとどまっており、5割強が「高校まで」と回答している。学力階層によって、中学生の将来の進路希望がかなりの程度水路づけられていることが読み取れる。なお、学力上位層であっても「高校まで」と「専門学校・各種学校まで」を合わせると全体の4分の1程度に達している点も注目される。

図3 - 2 - 4 希望する進学段階（数学の学力階層別）



注1)「高校への進学希望」に「思っている」と回答した生徒を母数としている。
 注2) ()内はサンプル数。

図3 - 2 - 4 希望する進学段階（国語の学力階層別）



注1)「高校への進学希望」に「思っている」と回答した生徒を母数としている。
 注2) ()内はサンプル数。